

CP5 / CP50

STAGE PIANO

取 扱 説 明 書

安全上のご注意




ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。


■ 記号表示について


この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	～しないでくださいという「禁止」を示します。
	「必ず実行」してくださいという強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

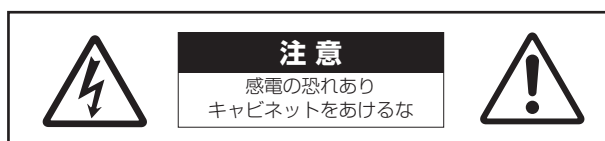
以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

 警告	この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
---	---

 注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。
---	--

■ CP5に表示されている注意マークについて

CP5には、次の注意マークが付いています。



これは、以下の内容の注意を喚起するものです。

「感電防止のため、パネルやキャビネットを外さないでください。内部には、お客様が修理 / 交換できる部品はありません。点検や修理は、必ずお買い上げの楽器店または巻末のヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。」

警告

電源/電源コード (CP5の場合)

電源/電源アダプター (CP50の場合)



禁止

電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。

電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。



必ず実行

電源は必ず交流100Vを使用する。

エアコンの電源など交流200Vのものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



必ず実行

CP50の電源アダプターは、必ず指定のもの(62ページ)を使用する。

異なった電源アダプターを使用すると、故障、発熱、火災などの原因になります。



必ず実行

CP5の電源コード/プラグは、必ず付属のものを使用する。

他の電源コード/プラグを使用すると、発熱や感電の原因になります。



必ず実行

電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。

感電やショートのおそれがあります。

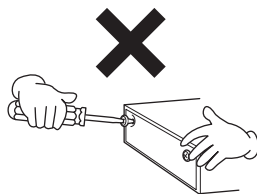
分解禁止



禁止

この製品の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、けが、または故障の原因になります。



水に注意



禁止

本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。

内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電のおそれがあります。

火に注意



禁止

本体の上にもろうそくなど火気のあるものを置かない。

ろうそくなどが倒れたりして、火災の原因になります。

異常に気づいたら



必ず実行

下記のような異常が発生した場合、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- ・電源コード/プラグがいたんだ場合
- ・製品から異常なおいや煙が出た場合
- ・製品の内部に異物が入った場合
- ・使用中に音が出なくなった場合

そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

⚠ 注意

電源/電源コード (CP5の場合)



たこ足配線をしない。
音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して火災の原因になることがあります。



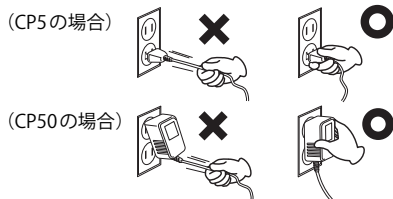
必ず実行

CP5では、アースプラグを確実に取り付ける。感電のおそれがあります。(アースプラグの取り付け方については14ページをご参照ください。)



必ず実行

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



必ず実行

長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。
感電や火災、故障の原因になることがあります。

設置



禁止

不安定な場所に置かない。
本体が転倒して故障したり、お客様や他の方々がけがをしたりする原因になります。



必ず実行

本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行なう。
コードをいためたり、お客様や他の方々が転倒したりするおそれがあります。



必ず実行

この機器を電源コンセントの近くに設置する。
電源プラグに容易に手の届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

接続



必ず実行

すべての機器の電源を切った上で、ほかの機器と接続する。また、電源を入れたり切ったりする前に、機器のボリュームを最小にする。

感電、聴力障害または機器の損傷の原因になります。



必ず実行

演奏を始める前に機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げて、適切な音量にする。

聴力障害または機器の損傷の原因になります。

取り扱い



禁止

本体のすき間に手や指を入れない。
お客様がけがをするおそれがあります。



禁止

パネル、鍵盤のすき間から金属や紙片などの異物を入れない。
感電、ショート、火災や故障の原因になることがあります。



禁止

本体の上にとったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。
本体が破損したり、お客様や他の方々がけがをしたりする原因になります。



禁止

大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。
聴覚障害の原因になります。



- データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。
- 不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

使用後は、必ず電源スイッチを切りましょう。

ご使用上の注意（注記）

製品の故障や損傷、データの損失を防ぐため、以下の内容をお守りください。

■製品の取り扱い / お手入れに関する注意

- ・ テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しないでください。楽器本体またはテレビやラジオなどに雑音が生じる原因になります。
- ・ 直射日光のあたる場所（日中の車内など）やストーブの近くなど極端に温度が高くなる場所、逆に温度が極端に低い場所、また、ほこりや振動の多いところで使用しないでください。本体のパネルが変形したり、内部の部品が故障したりする原因になります。
- ・ 本体上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かないでください。本体のパネルや鍵盤が変色/変質する原因になります。
- ・ 手入れするときは、乾いた柔らかい布をご使用ください。ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどを使用すると、変色/変質する原因になりますので、使用しないでください。
- ・ 極端に湿度が変化すると、本体表面に水滴がつく（結露する）ことがあります。水滴をそのまま放置すると、木部が水分を吸収して変形する原因になります。水滴がついた場合は、柔らかい布ですぐに拭きとってください。

■データの保存に関する注意

- ・ エディットバッファ上のデータ（50ページ）は電源を切ると消えてしまいます。保存しておきたいデータはユーザーメモリー（50ページ）/USBフラッシュメモリー/コンピューターなどの外部機器に保存してください。また、ユーザーメモリーに保存したデータは故障や誤操作などのために失われることがあります。大切なデータはUSBフラッシュメモリーやコンピューターなどの外部機器に保存してください。
- ・ 保存したUSBフラッシュメモリー/コンピューターの万一の事故に備えて、大切なデータは予備のUSBフラッシュメモリー/コンピューターにバックアップとして保存されることをおすすめします。

お知らせ

●データの著作権に関するお願い

- ・ ヤマハ(株)および第三者から販売もしくは提供されている音楽/サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。
- ・ この製品は、ヤマハ(株)が著作権を有する著作物やヤマハ(株)が第三者から使用許諾を受けている著作物を内蔵または同梱しています。その著作物とは、すべてのコンピュータープログラムや、伴奏スタイルデータ、MIDIデータ、WAVEデータ、音声記録データ、楽譜や楽譜データなどのコンテンツを含みます。ヤマハ(株)の許諾を受けることなく、個人的な使用の範囲を超えて上記プログラムやコンテンツを使用することについては、著作権法等に基づき、許されていません。

●製品に搭載されている機能 / データに関するお知らせ

- ・ この製品には、XGフォーマット以外の音楽/サウンドデータを扱う機能があります。その際、元のデータをこの楽器に最適化して動作させるため、オリジナルデータ（音楽/サウンドデータ）制作者の意図どおりには再生されない場合があります。ご了承のうえ、ご使用ください。

●取扱説明書の記載内容に関するお知らせ

- ・ この取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。
- ・ この取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、CP5とCP50の場合分けをしていない場合は、CP5のものを使用しています。
- ・ Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- ・ MacまたはMacintoshは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- ・ MIDIは社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- ・ その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

ヤマハ製品では、機能や操作性向上のために、不定期に製品本体のファームウェアおよび関連アプリケーションをアップデートすることがあります。ステージピアノ/製品の最新バージョンアップについては、以下のウェブサイトを確認やダウンロードができます。お使いのCP5/CP50につきましても、本体ファームウェアや関連アプリケーションを最新バージョンにアップデートされることを推奨します。

<http://www.yamahasynth.com/jp/>

なおこの取扱説明書では、本書制作時のバージョンで説明しております。製品本体のファームウェアアップデートがある場合は、本体バージョンの確認方法やその機能/操作についても上記ページでご確認いただけますようお願いいたします。

はじめに

このたびはYamaha ステージピアノ CP5/CP50をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。CP5/CP50には往年の名機を忠実に再現したピアノ音色やアンプ、エフェクターが搭載されており、これらを自由に組み合わせることで定番のセッティングからオリジナルのセッティングまでをCP5/CP50一台で実現できます。またCP5/CP50には、ピアノ音色以外にストリングスやギターなどの音色も搭載しており、ピアノ音色と組み合わせてオリジナルのアンサンブルサウンドを作りだせます。ライブパフォーマンスや音楽制作の幅をより一層広げるものとして、ご活用ください。

CP5/CP50の優れた機能を使いこなしていただくために、この取扱説明書をご活用いただきますようご案内申し上げます。また、ご一読いただいたあとも不明な点が生じた場合に備えて、大切に保管いただきますようお願い申し上げます。

付属品

- 電源コード(CP5の場合)/電源アダプター(CP50の場合)
- フットペダル FC3
- 取扱説明書(本書)
- 取扱説明書CD-ROM×1枚(リファレンスマニュアル、データリスト収録)
- DVD-ROM×1枚(付属DAWソフトウェア)*
- 保証書
- 2P-3P変換器(CP5のみ)

* 付属DVD-ROMについては、59ページをご参照ください。

取扱説明書の使い方

CP5/CP50には、取扱説明書、リファレンスマニュアル、データリストの3つのマニュアルが付属しています。取扱説明書(本書)は冊子として製品と同梱されており、リファレンスマニュアルとデータリストはPDFファイルとして同梱CD-ROMに収録されています。

■取扱説明書(本書)

CP5/CP50を使用するまでの準備と、基本的な操作方法について説明しています。

■リファレンスマニュアル(PDFファイル)

CP5/CP50のしくみおよびパラメーターについて説明しています。

■DATA LIST(PDFファイル)

CP5/CP50に搭載されているパフォーマンスのリストや、モジュレーションエフェクトブロック、パワーアンプ/コンプレッサーブロックのタイプおよびパラメーターのリスト、またMIDIに関する資料などを掲載しています。

PDFマニュアルの活用方法

リファレンスマニュアルとデータリストは、PDFファイルになっています。これらのPDFファイルは、コンピューターを使ってご覧いただくことができます。コンピューターでご覧いただくソフトウェアとして「Adobe® Reader®」を使うと、用語をすばやく検索したり、必要な部分のみ印刷したり、リンクをクリックして該当する項目を開いたりすることができます。特に用語検索とリンク機能は、電子ファイルならではの便利な機能です。ぜひご活用ください。

最新のAdobe Readerは下記のURLよりダウンロードできます。

<http://www.adobe.com/jp/products/reader/>

CP5/CP50の特長

■最高峰のクオリティーを誇るアコースティックピアノとエレクトリックピアノのサウンド

ステージピアノCP1直系のアコースティックピアノサウンドとエレクトリックピアノサウンドを搭載しています。ステージピアノ作りのノウハウをそそぎこんで、1鍵ごとに細かい音の調整や鍵盤タッチとの合わせこみを行ない、ソロ演奏に映える濃密なピアノサウンドと、アンサンブル演奏の中でも埋もれないピアノサウンドの両方を実現しています。さらにエレクトリックピアノでは、元の楽器の発音機構を最新の技術を用いて解析し、再現することで、スムーズな鍵盤タッチを実現しています。オリジナルのプリアンプに加え、サウンドメイキングに欠かせないさまざまなバリエーションを生む外部エフェクターもモデリングし、往年の名機とよばれるサウンドを忠実に再現しています。

■ステージ演奏の幅を広げる多彩な音色とエフェクト

CP5/CP50には、ピアノ音色以外にストリングスやギター、ベースなどの様々な音色が搭載されています。また、コーラスやフランジャーなどの多彩なエフェクトも搭載しており、バリエーション豊かなサウンドをステージ演奏に活用できます。

■ピアノの弾き心地にこだわった88鍵ハンマー鍵盤

CP5はアコースティックピアノやエレクトリックピアノの弾き心地を実現した88鍵の木製象牙調ウェイテッド鍵盤を、CP50はピアノの鍵盤に近い弾き心地を実現した88鍵のグレードハンマー鍵盤を装備しています。

■オリジナルのピアノサウンドを作るカスタマイズ機能

CP5/CP50に搭載されているボイス、アンプ、エフェクターを自由に組み合わせるカスタマイズ機能により、往年の定番セッティングの再現からオリジナルの組み合わせまで簡単に実現できます。

■パフォーマンスのパートの発音領域を簡単に切り替えるレイヤー/ スプリット機能

CP5/CP50では、パフォーマンスのパートを重ねて鳴らす(レイヤー)場合と、左手鍵域と右手鍵域とに分けて鳴らす(スプリット)場合との切り替えが簡単にできます。

■本体の鍵盤演奏の録音機能およびオーディオデータの再生 / 録音機能

本体での鍵盤演奏をMIDIデータとして本体に録音したり、オーディオデータ(Waveファイル)としてUSBフラッシュメモリーに録音したりできます。また、USBフラッシュメモリーに保存してあるWaveファイルを、鍵盤演奏のバックアップソングとして再生できます。

■マスターキーボード機能

CP5/CP50には、ステージで使うために必要なマスターキーボード機能を厳選して搭載しています。鍵盤を4つの領域(ゾーン)にわけて、それぞれの領域で外部MIDI音源を含む4つの異なる音源を本体からコントロールできます。

■マイク入力端子の装備(CP5のみ)

CP5には、MIC INPUT端子が装備されており、マイクを接続して弾き語り演奏などに活用できます。

目次

各部の名称と機能	10
フロントパネル	10
リアパネル	13
演奏前の準備	14
電源コードを接続する	14
外部オーディオ機器と接続する	15
ペダルを接続する	16
電源を入れる	16
画面の明るさを調整する	17
音量を調整する	17
デモソングを聞いてみよう	18
基本操作	19
ページの切り替え	19
値の変更/設定	19
名前を設定	20
ノートナンバーの入力	20
エディットマーク	21
現在表示されている画面からの抜け方	21
クイックガイド	22
CP5/CP50の基本的な使い方	22
パフォーマンスを演奏する	22
オリジナルのパフォーマンスを作る	33
バックギンに合わせて演奏する	37
マイク入力と合わせて演奏する (CP5のみ)	40
演奏を録音する	41
MIDI機器と接続して使用する	45
コンピューターと接続して使用する	46
設定を保存する	49
USBフラッシュメモリーとファイルをやりとりする	52
工場出荷時の状態に戻す (ファクトリーセット)	52
資料	53
困ったときは	53
メッセージリスト	57
付属ディスクについて	59
ソフトウェアのご使用条件	60
仕様	62
索引	63
ユーザーサポートサービスのご案内	66
保証とアフターサービス	67

各部の名称と機能

演奏前の準備

デモンストレーションを聞いてみよう

基本操作

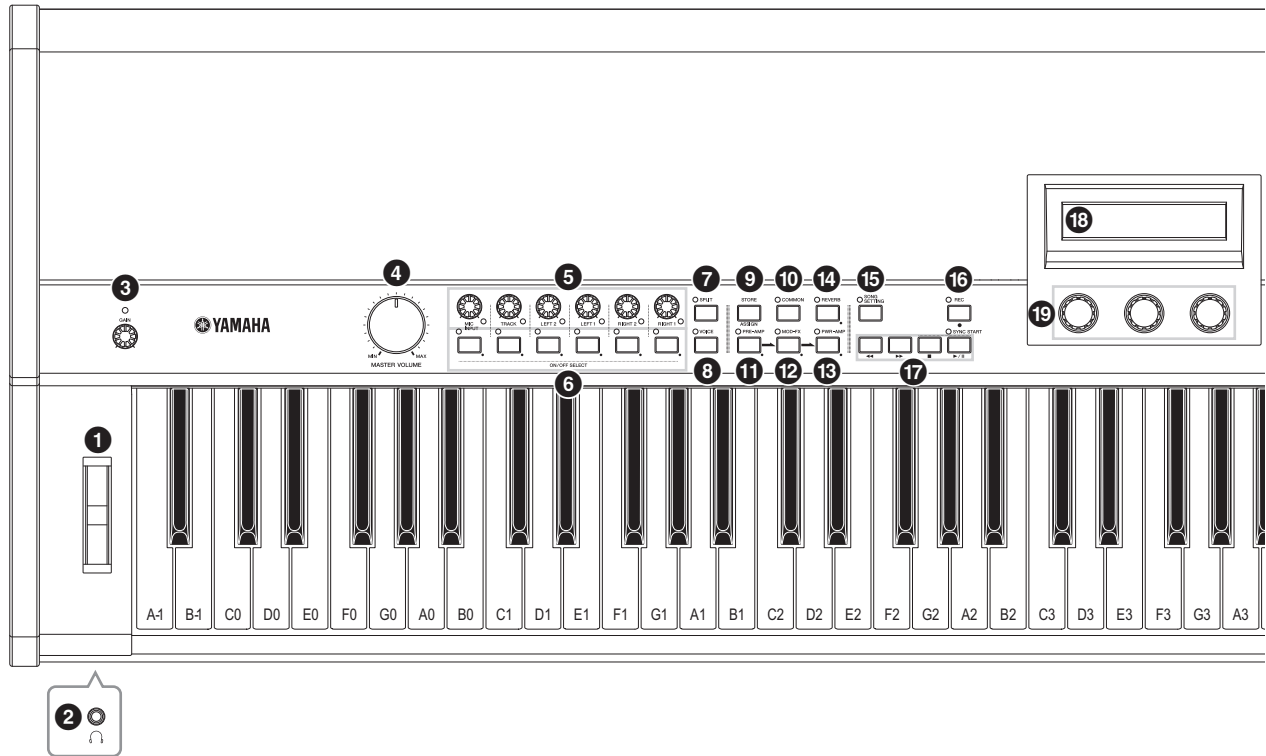
クイックガイド

資料

各部の名称と機能

フロントパネル

(イラストはCP5のものです。)



① ピッチベンドホイール(30ページ)

ピッチベンド効果のアップ/ダウンをコントロールします。

② ヘッドフォン端子(15ページ)

ステレオヘッドフォンを接続する端子です。

③ ^{ゲイン}[GAIN]ノブ(40ページ) **CP5のみ**

CP5の[MIC INPUT]端子から入力される信号のゲインを調節します。接続したマイクの信号レベルに合わせて調節します。右に回すと入力信号が大きくなり、左に回すと小さくなります。

④ ^{マスターボリューム}[MASTER VOLUME]ダイヤル(17ページ)

本体全体の音量を調整します。

⑤ パートボリュームノブ

パフォーマンス(22ページ)のパートのボリュームを調整するノブです。右に回すとボリュームが大きくなり、左に回すと小さくなります。また各ノブの左下についているランプは、各パートが選択されているか(ランプ点灯)、されていないか(ランプ消灯)を表します。CP5の場合は、左側から順番に、[MIC INPUT]ノブ、[TRACK]ノブ、[LEFT2]ノブ、[LEFT1]ノブ、[RIGHT2]ノブ、[RIGHT1]ノブになります。CP50の場合は、左側から順番に、[TRACK]ノブ、[LEFT]ノブ、[RIGHT]ノブになります。

⑥ パートボタン

パフォーマンスのパートのオン/オフまたはパートの設定をします。このボタンを押すと、各パートのオン(ランプ点灯)/オフ(ランプ消灯)を切り替えます。また、このボタンを長押し(1秒以上押したままに)すると、押したボタンに該当するパートが選択され、パート設定画面を表示し、該当ボタンのランプが点滅します。設定画面を表示している場合でも、パートボタンを押すと、パートのオン/オフの切り替えができます。この場合、オンかオフかでランプの点滅の仕方が異なります。オンの場合は点灯時間が長くて消灯時間が短くなり、オフの場合は点灯時間が短くて消灯時間が長くなります。

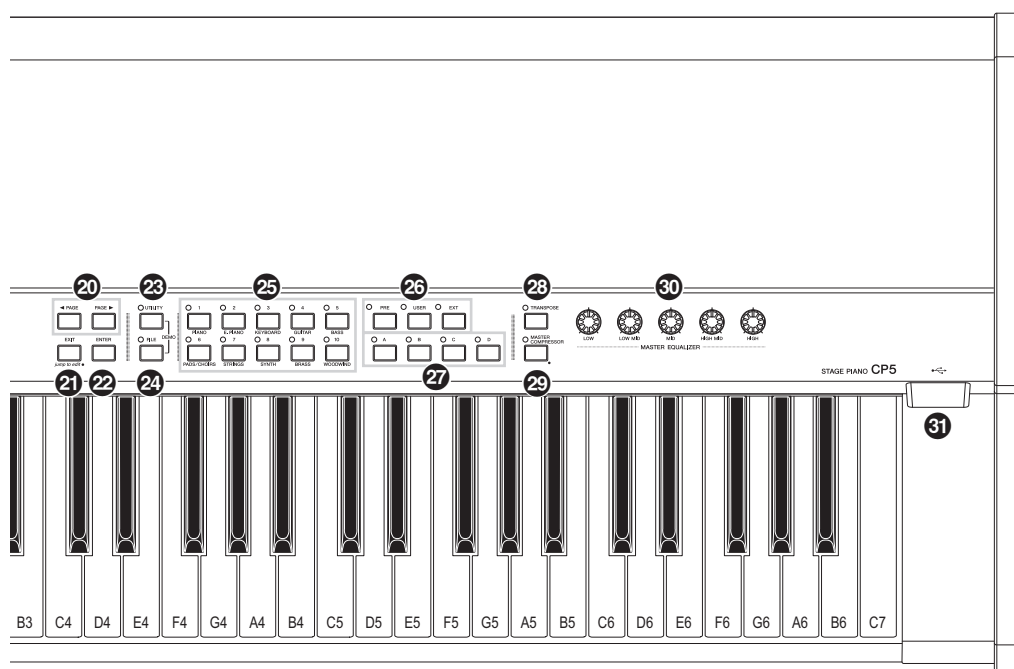
CP5の場合は、左側から順番に、[MIC INPUT]ボタン、[TRACK]ボタン、[LEFT2]ボタン、[LEFT1]ボタン、[RIGHT2]ボタン、[RIGHT1]ボタンになります。CP50の場合は、左側から順番に、[TRACK]ボタン、[LEFT]ボタン、[RIGHT]ボタンになります。

⑦ ^{スプリット}[SPLIT]ボタン(32ページ)

パフォーマンスのスプリットのオン(ランプ点灯)/オフ(ランプ消灯)を切り替えます。コモン設定画面にある「Split」パラメーターと連動します。

⑧ ^{ボイス}[VOICE]ボタン(33ページ)

このボタンを押すことで、ボタンのランプが点灯し、選択中のパートのボイスの設定画面が表示されます。



- 9** ストア/アサイン
[STORE/ASSIGN] ボタン (28, 50 ページ)
 このボタンを押すことで、パフォーマンスまたはシステム設定の保存(ストア)画面が表示されます。また、パフォーマンスのトップ画面およびボイス/プリアンプ/モジュレーションエフェクト/パワーアンプ/コンプレッサー/リバーブの設定画面でこのボタンを1秒以上押すことで、**19**のノブ1~3にプリアンプ/モジュレーションエフェクト/パワーアンプ/コンプレッサー/リバーブのパラメーターを割り当てる画面が表示されます。

- 10** コモン
[COMMON] ボタン (35 ページ)
 このボタンを押すことで、ボタンのランプが点灯し、LEFT/RIGHT部分の全部分に共通するコモン設定画面が表示されます。

- 11** プリアンプ
[PRE-AMP] ボタン (31, 34 ページ)

- 12** モジュレーションエフェクト
[MOD-FX] ボタン (31, 34 ページ)

- 13** パワーアンプ
[PWR-AMP] ボタン (31, 34 ページ) **CP5のみ**

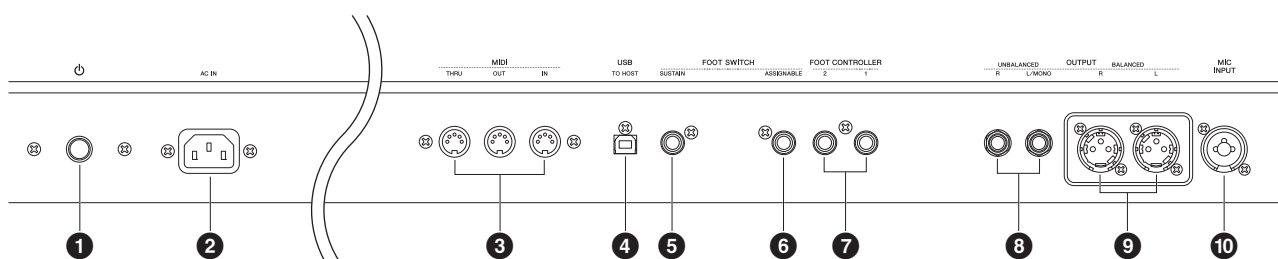
- 14** リバーブ
[REVERB] ボタン (31, 35 ページ)
 これらのボタンを押すことで、プリアンプブロック、モジュレーションエフェクトブロック、パワーアンプ/コンプレッサーブロック (CP5のみ)、リバーブブロックそれぞれのオン(ランプ点灯)/オフ(ランプ消灯)を切り替えます。ただしプリアンプブロックは、選択中のパートのボイスがPIANO/E.PIANO カテゴリーのボイスに設定されているときのみ機能します。またこれらのボタンを長押し(1秒以上押し続けたまま)すると、該当ボタンのランプが点滅し、各ブロックの設定画面が表示されます。設定画面が表示されている場合でも、これらのボタンを押すと、各ブロックのオン/オフを切り替えられます。この場合、オンかオフかでランプの点滅の仕方が異なります。オンの場合は点灯時間が長くて消灯時間が短くなり、オフの場合は点灯時間が短くて消灯時間が長くなります。

フロントパネル

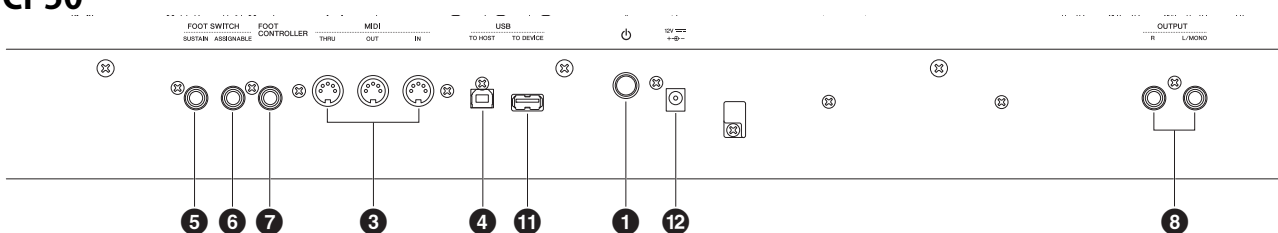
- 15** ソングセッティング **[SONG SETTING] ボタン (37 ページ)**
このボタンを押すことで、ボタンのランプが点灯し、ソング設定画面が表示されます。
- 16** レック **[REC] ボタン (41 ページ)**
このボタンを押すことで、ボタンのランプが点灯し、レコード画面が表示されます。
- 17** **シーケンサートランスポートボタン (37、42 ページ)**
バックグソングの再生/録音をコントロールします。
[◀◀](リワインド) ボタン
バックグソングがプリセットドラムパターンまたはユーザーソングの場合は、再生位置を1小節ずつ戻します。バックグソングがWaveファイルの場合は、再生位置を1秒ずつ戻します。ボタンを押し続けると連続して戻ります。
[▶▶](フォワード) ボタン
バックグソングがプリセットドラムパターンまたはユーザーソングの場合は、再生位置を1小節ずつ進めます。バックグソングがWaveファイルの場合は、再生位置を1秒ずつ進めます。ボタンを押し続けると連続して進みます。
[■](ストップ) ボタン
ソングの再生や録音を止めます。
[▶/III](プレイ/ポーズ) ボタン
ソングの再生や録音の開始をします。再生中にこのボタンを押すと一時停止し、録音中にこのボタンを押すと、録音を終了します。
- 18** **画面**
場面に応じて、さまざまなメッセージや各種設定などが表示されます。
- 19** **ノブ 1 ~ 3 (27 ページ)**
本書では、3つのノブを左からノブ1、ノブ2、ノブ3と表記します。ノブ1~3を回すことで、それぞれに割り当てたパラメーターを操作します。設定画面を表示している場合は、ノブ1~3を回す/押すことで、画面に表示された各ノブに該当するパラメーターを編集します。
- 20** ページ **[◀PAGE]/[PAGE▶] ボタン (19 ページ)**
設定画面が複数ページ存在する場合に、このボタンを押すことでページの切り替えができます。
- 21** エグジット/ジャンプトゥーエディット **[EXIT/jump to edit] ボタン (21、34 ページ)**
このボタンを押すことで、各ブロック (31 ページ) の設定画面、ユーティリティ画面またはファイル画面から抜けてパフォーマンスのトップ画面に戻ります。また、このボタンを押しながら [PRE-AMP] ボタン、[MOD-FX] ボタン、[PWR-AMP] ボタン、[REVERB] ボタン、[MASTER COMPRESSOR] ボタン、パートボタンを押すことで各ブロックの設定画面を表示します。また、このボタンを押しながら [STORE/ASSIGN] ボタンを押すことで、ノブ1~3のパラメーターを割り当てる画面を表示します。
- 22** エンター **[ENTER] ボタン**
このボタンを押すことで、設定した値を確定したり、操作を実行したりします。
- 23** ユーティリティ **[UTILITY] ボタン**
このボタンを押すことで、ランプが点灯し、ユーティリティ画面が表示されます。また、[UTILITY] ボタンと [FILE] ボタンを同時に押すことで、デモソング再生画面が表示されます。
- 24** ファイル **[FILE] ボタン (52 ページ)**
このボタンを押すことで、ファイル画面が表示されます。
- 25** **ナンバー [1] ~ [10] ボタン**
選択されたパフォーマンスバンクにおけるパフォーマンスナンバーを切り替えます。選択されたナンバーボタンのランプが点灯します。パフォーマンスナンバーが確定していないときは、ボタンのランプが点滅します。また、パラメーターの設定画面が複数ページある場合に、これらのボタンでページの選択ができます。表示中のページ番号に該当するボタンのランプが点滅します。
- 26** **バンクボタン**
[PRE]/[USER]/[EXT] ボタンを押して、パフォーマンスバンクを切り替えます。3種類のバンク (プリセット、ユーザー、エクスターナル) には、それぞれ3バンクずつ用意されており、該当ボタンを繰り返し押すことでPRE1/PRE2/PRE3、USER1/USER2/USER3、またはEXT1/EXT2/EXT3を切り替えます。また、[EXT] ボタンを押しながら [PRE]/[USER]/[EXT] ボタンを押すことで、該当バンクの1番目 (PRE1/USER1/EXT1) が選択されます。パフォーマンスナンバーが確定されていない状態では、ボタンのランプが点滅します。
- 27** **グループ [A] ~ [D] ボタン**
[A]/[B]/[C]/[D] ボタンを押して、選択されたパフォーマンスバンクにおけるグループを切り替えます。パフォーマンスナンバーが確定されていない状態では、ボタンのランプが点滅します。また、パラメーターの設定画面が複数ページある場合に、これらのボタンでページの選択ができます。表示中のページ番号に該当するボタンのランプが点滅します。
- 28** トランスポーズ **[TRANSPOSE] ボタン (30 ページ)**
このボタンを押すことで、ランプが点灯し、トランスポーズ画面が表示されます。
- 29** マスターコンプレッサー **[MASTER COMPRESSOR] ボタン (30、31、36 ページ)**
このボタンを押すことで、マスターコンプレッサーのオン (ランプ点灯)/オフ (ランプ消灯) を切り替えます。またこのボタンを長押し (1秒以上押し続けたままに) すると、該当ボタンのランプが点滅し、マスターコンプレッサーの設定画面が表示されます。設定画面が表示されている場合でも、このボタンを押すと、マスターコンプレッサーのオン/オフを切り替えることができます。この場合、オンかオフかでランプの点滅の仕方が異なります。オンの場合は点灯時間が長くて消灯時間が短くなり、オフの場合は点灯時間が短くて消灯時間が長くなります。
- 30** マスターイコライザー **[MASTER EQUALIZER] ノブ (30 ページ)**
CP5/CP50全体の音のマスターEQを調整します。CP5の場合は [LOW] ノブ、[LOW MID] ノブ、[MID] ノブ、[HIGH MID] ノブ、[HIGH] ノブを、CP50の場合は [LOW] ノブ、[MID] ノブ、[HIGH] ノブを使って、各周波数帯域におけるゲインを調整します。ユーティリティ設定画面の各パラメーターと連動しています (リファレンスマニュアル参照)。
- 31** ユーエスビートゥーデバイス **USB TO DEVICE 端子 (25 ページ)** **CP5 のみ**
本体とUSBフラッシュメモリーを接続する端子です。

リアパネル

CP5



CP50



① 電源スイッチ (16 ページ)

(CP5) 電源スイッチ、(CP50) スタンバイ/オンスイッチです。CP5 の場合、電源のオン(●) / オフ(■) を、CP50 の場合、電源のオン(●) / スタンバイ(■) を切り替えます。

② [AC IN] 端子 (14 ページ) **CP5 のみ**

付属の電源コードを接続します。付属の電源コード以外は使用しないでください。

③ MIDI [IN]/[OUT]/[THRU] 端子 (45 ページ)

MIDI 機器を接続する場合に使います。

④ [USB TO HOST] 端子 (46 ページ)

本体とコンピューターを、USB ケーブルを使って接続する場合に使います。

⑤ FOOT SWITCH [SUSTAIN] 端子 (16、29 ページ)

付属のフットペダル FC3、または別売のフットスイッチ FC4/FC5 も接続でき、サステイン専用に使います。

⑥ FOOT SWITCH [ASSIGNABLE] 端子 (16、29 ページ)

別売のフットスイッチ FC4/FC5 を接続します。この端子に接続したペダルには、さまざまな機能を割り当てられます。

⑦ FOOT CONTROLLER 端子 (16 ページ)

別売のフットコントローラー FC7/FC9 を接続します。これら端子に接続したペダルには、さまざまな機能を割り当てられます。CP5 の場合は、FOOT CONTROLLER [1] 端子と FOOT CONTROLLER [2] 端子の 2 つの端子が搭載されており、CP50 の場合は、FOOT CONTROLLER 端子の 1 つの端子が搭載されています。

⑧ アウトプット モノラル OUTPUT [L/MONO]/[R] 端子 (UNBALANCED) (15 ページ)

オーディオ信号を出力する端子(標準ジャック)です。アンバランス接続に対応しています。モノラル出力したい場合は、[L/MONO] 端子だけに接続します。規定出力レベルは +4dBu です。

⑨ アウトプット バランスド OUTPUT [L]/[R] 端子 (BALANCED) (15 ページ) **CP5 のみ**

オーディオ信号をバランス出力する端子です。ミキサーなどと接続します。ノイズを防ぐことができ、頑丈で変形しにくく、端子にロック機構がついていて引っ張っても接続が外れないようになっていますので、信頼性の要求されるプロの現場などで使用頻度が高い端子です。規定出力レベルは +4dBu です。

⑩ マイクインプット [MIC INPUT] 端子 (40 ページ) **CP5 のみ**

本体へ外部オーディオ信号を入力する端子(コンボジャック)です。マイクを接続し、入力音声をパフォーマンスの MIC INPUT パート (22 ページ) として鳴らすことができます。接続には、XLR (オス) プラグかモノラル標準プラグを使います。

⑪ ユーエスビートゥーデバイス [USB TO DEVICE] 端子 (25 ページ) **CP50 のみ**

本体と USB フラッシュメモリーを接続する端子です。

⑫ ディーシーイン DC IN 端子 (14 ページ) **CP50 のみ**

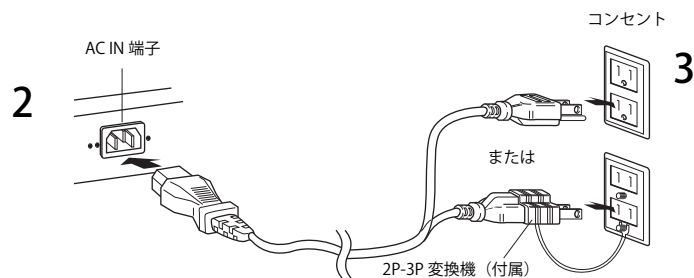
付属の電源アダプターを接続する端子です。

演奏前の準備

電源コードを接続する

CP5の場合

- 1 本体のリアパネルにある \oplus (電源) スイッチがオフになっていることを確認します。
- 2 付属の電源コードのプラグを、本体のリアパネルにある [AC IN] 端子に接続します。
- 3 電源コードの、もう一端のプラグを電源コンセント (家庭用 AC100V) に接続します。



NOTE 電源コードを外すときは、逆の手順で行なってください。

警告 電源コードは、必ず付属のものをお使いください。他の電源コードを使用すると、発熱や感電の原因になります。

警告 電源は必ず AC100V を使用してください。

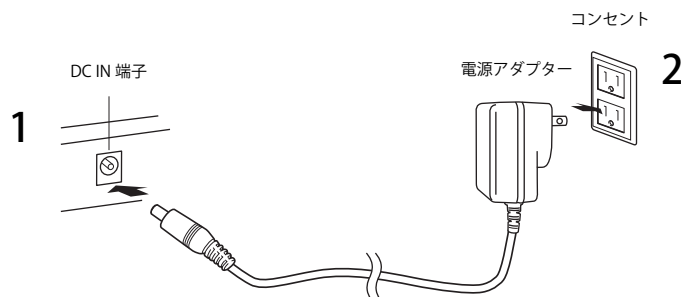
注意 CP5 は、アース線の使用を前提として設計されています。感電と機器の損傷を防ぐため、電源コードにはアース端子が付いています。コンセントにプラグを差し込むときは、アース端子を接続してください。なお、接続方法がわからないときは、巻末のヤマハ修理ご相談センターにご相談ください。

注意 電源スイッチがオフの状態でも微電流が流れています。長時間使用しないときは必ず電源コードを電源コンセントから抜いてください。

CP50の場合

次の順番で、付属の電源アダプターを接続します。電源アダプターを接続する前に、CP50の \oplus (スタンバイ/オン) スイッチがスタンバイ (■) になっていることを確認してください。

- 1 電源アダプターのプラグをCP50リアパネルのDC IN端子に接続します。
- 2 電源アダプターを電源コンセント (AC100V) に接続します。



NOTE 電源アダプターを外すときは、逆の手順で行なってください。

警告 電源アダプターは、必ず付属のものをお使いください。他の電源アダプターを使用した場合、故障などの原因となり、大変危険です。

警告 付属の電源アダプターは100V用です。電源は必ず AC100V を使用してください。

注意 スタンバイ/オンスイッチがスタンバイの状態でも微電流が流れています。長時間使用しないときは必ず電源アダプターをコンセントから抜いてください。

外部オーディオ機器と接続する

CP5/CP50にはスピーカーが内蔵されていません。音を出すためには、外部ステレオシステムやアンプ、スピーカーなどと接続が必要です。ヘッドフォン端子にヘッドフォンを接続すれば直接音を聞くこともできます。ここでは、一般的な接続の方法をいくつかご紹介します。次のイラストを参考に外部のオーディオシステムと接続しましょう。

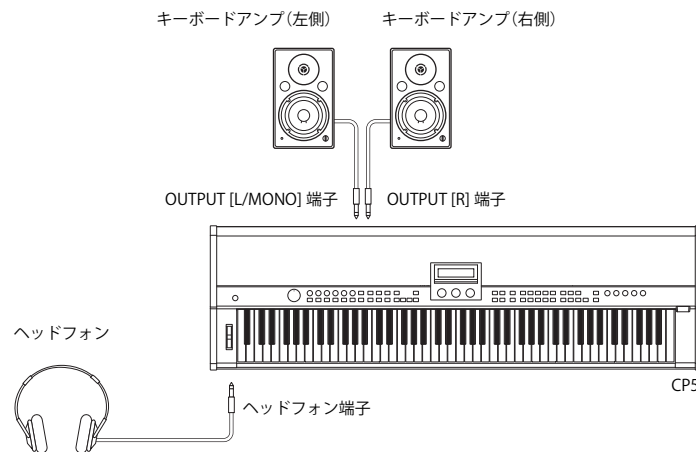
注意 大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

注記

外部機器と接続するときは、すべての機器の電源を切った状態で行なってください。

アンプやスピーカーを使う場合

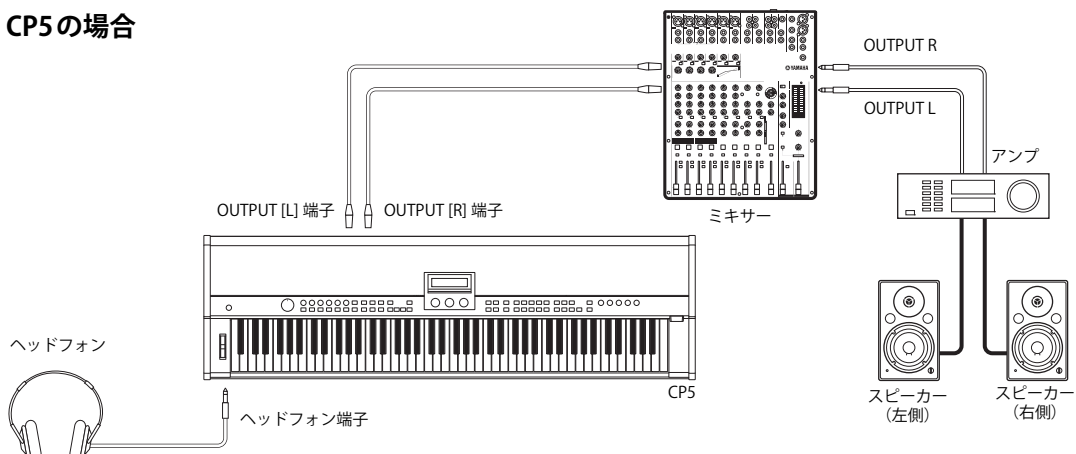
キーボードアンプやモニタースピーカーを2台使用すると、各パフォーマンスのパンやエフェクトなどの設定が再現され、拡がりのある豊かなサウンドが得られます。この場合、リアパネルのOUTPUT [L/MONO]/[R]端子 (UNBALANCED) を使用します。キーボードアンプやモニタースピーカーを1台のみ使用する場合は、OUTPUT [L/MONO]端子 (UNBALANCED) に接続します。



ミキサーを使う場合

レコーディングやライブパフォーマンスでは、ミキサーを接続して使用することが一般的です。CP5では、ノイズに強い3極のOUTPUT [L]/[R]端子 (BALANCED) が標準装備されていますので、OUTPUT [L]/[R]端子 (BALANCED) をお使いになることをお勧めします。CP50では、OUTPUT [L]/[R]端子は装備されていないので、OUTPUT [L/MONO]/[R]端子 (アンバランス方式) を使用してください。

CP5の場合

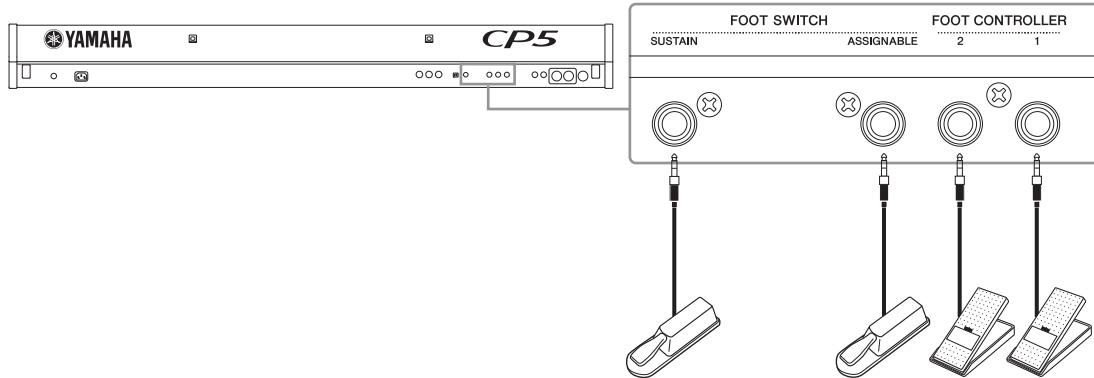


- NOTE**
- ・ヘッドフォンでは、OUTPUT [L]、[R]端子やOUTPUT [L/MONO]、[R]端子の出力と同じ信号をモニターできます。なお、楽器本体の[MASTER VOLUME]ダイヤルで外部オーディオ機器やヘッドフォンから出る音量を調整できます。
 - ・OUTPUT [L]、[R]端子やOUTPUT [L/MONO]、[R]端子などからのサウンドは、ヘッドフォンの抜き差しに関係なく出力されます。

ペダルを接続する

付属のフットペダルFC3をFOOT SWITCH [SUSTAIN]端子に接続します。

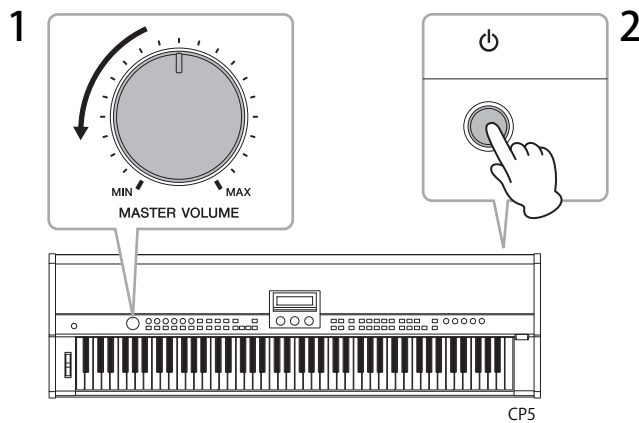
また、別売のフットスイッチFC4/FC5をFOOT SWITCH [ASSIGNABLE]端子に接続したり、別売のフットコントローラーFC7/FC9をFOOT CONTROLLER [1]/[2]端子(CP50の場合はFOOT CONTROLLER端子)に接続したりして、さまざまなパラメーターをコントロールすることもできます。コントローラーへのパラメーターの割り当てについては、コモン設定画面(リファレンスマニュアル参照)をご参照ください。



NOTE FOOT SWITCH [SUSTAIN]端子には別売のフットスイッチFC4/FC5を接続することもできます。

電源を入れる

- 1 ペダルやヘッドフォンなどの接続が完了したら、本体パネルの左側にある [MASTER VOLUME] ダイアルと本体に接続しているキーボードアンプやモニタースピーカーのボリュームが最小(「MIN」や0)になっていること、さらに電源がオフ/スタンバイ(■)になっていることを確認します。
- 2 本体のリアパネルにある 電源スイッチを押します。
- 3 本体に接続しているキーボードアンプやモニタースピーカーなどの電源を入れます。



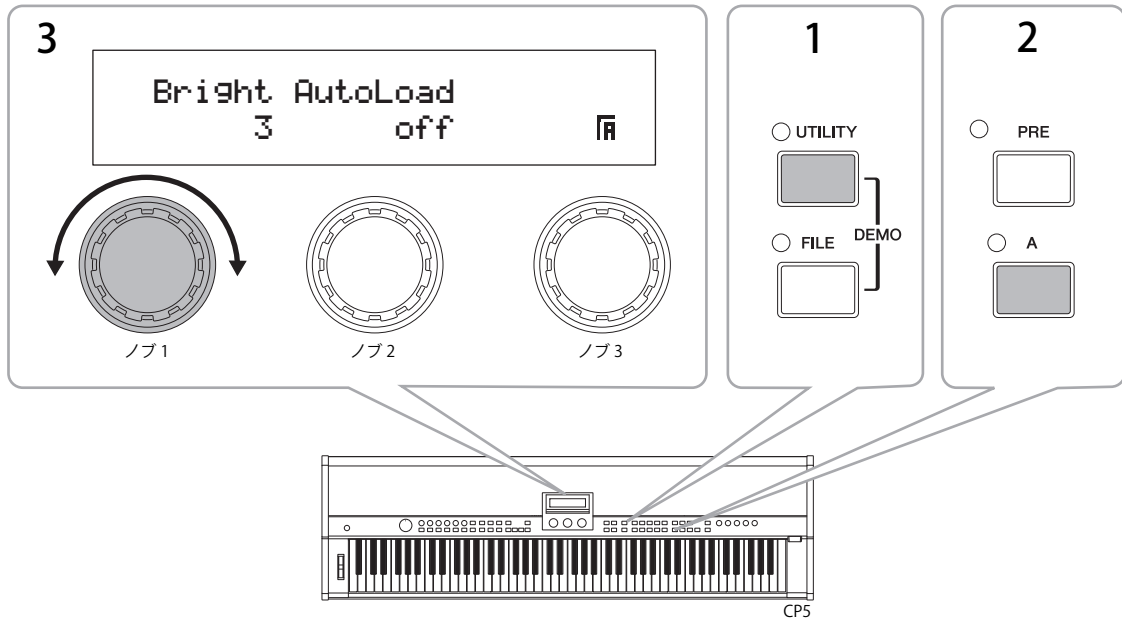
電源を切るときは、本体の [MASTER VOLUME] ダイアルと本体に接続しているキーボードアンプやモニタースピーカーのボリュームを最小(「MIN」や0)にし、本体に接続しているキーボードアンプやモニタースピーカーの電源を切ってから、本体リアパネルの 電源スイッチを押して電源をオフ/スタンバイにします。

HINT

USBフラッシュメモリーが接続されている状態で電源を入れた場合は、パフォーマンスのトップ画面が表示される前に、エクスターナルパフォーマンスデータ(23ページ)がUSBフラッシュメモリー上に作成されたり、USBフラッシュメモリー上にあるエクスターナルパフォーマンスデータが本体のDRAM上にロードされたりします。詳しくは、リファレンスマニュアルをご参照ください。

画面の明るさを調整する

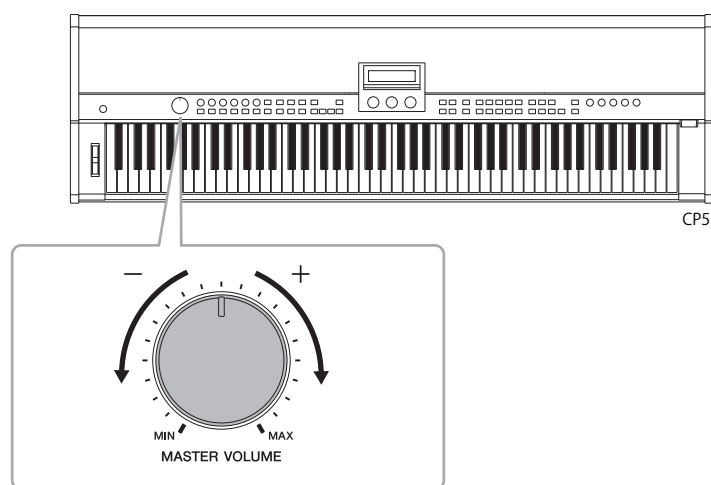
- 1 本体パネルの右側にある[UTILITY]ボタンを押して、ユーティリティ画面を表示します。
- 2 本体パネルの右側にあるグループ[A]ボタンを押して、ユーティリティ画面の11(A)ページ目を表示します。
- 3 「Bright (ブライツネス)」の値をノブ1を回して設定し、画面の明るさを調整します。
「1」に設定すると画面が一番暗くなり、「4」に設定すると一番明るくなります。



NOTE [UTILITY]ボタンと[◀PAGE]/[PAGE▶]ボタンを使って画面の明るさを調整することもできます。[UTILITY]ボタンを押しながら[◀PAGE]ボタンを押すと画面が暗くなり、[UTILITY]ボタンを押しながら[PAGE▶]ボタンを押すと画面が明るくなります。

音量を調整する

本体パネルの左側にある[MASTER VOLUME]ダイヤルで、本体の音量を調整します。実際に鍵盤を弾いて音を出しながら、音量を調整してください。



NOTE [MASTER VOLUME]ダイヤルでヘッドフォン端子の出力レベルも調整できます。

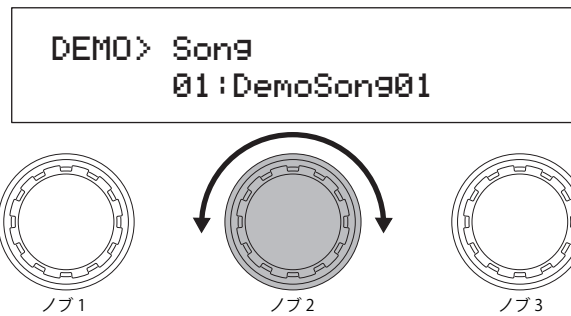
注記

[MASTER VOLUME]ダイヤルの操作によって、OUTPUT [L]/[R]端子(CP5のみ)、OUTPUT [L/MONO]/[R]端子、ヘッドフォン端子の出力レベルが同時に変更されるため、ヘッドフォン端子の出力レベルを調整する場合は、キーボードアンプやモニタースピーカーの音量にも気をつけながら調整してください。

デモソングを聞いてみよう

CP5/CP50にはデモソングが複数曲収録されています。次の手順でデモソングを再生し、CP5/CP50の音色をお聴きください。

- 1 [UTILITY]ボタンと[FILE]ボタンを同時に押します。
デモソング再生画面が表示されます。



NOTE ここに掲載しているデモソングの画面は操作説明のためのものです。したがって、実際とは異なる場合があります。

- 2 ノブ2を回してデモソングを選択します。
NOTE デモソングの選択は、デモソング停止中のみ可能です。
- 3 [▶/III](プレイ/ポーズ)ボタンを押してデモソングを再生します。
- 4 [■](ストップ)ボタンを押してデモソングを停止します。
- 5 [EXIT]ボタンを押して、パフォーマンス画面に戻ります。

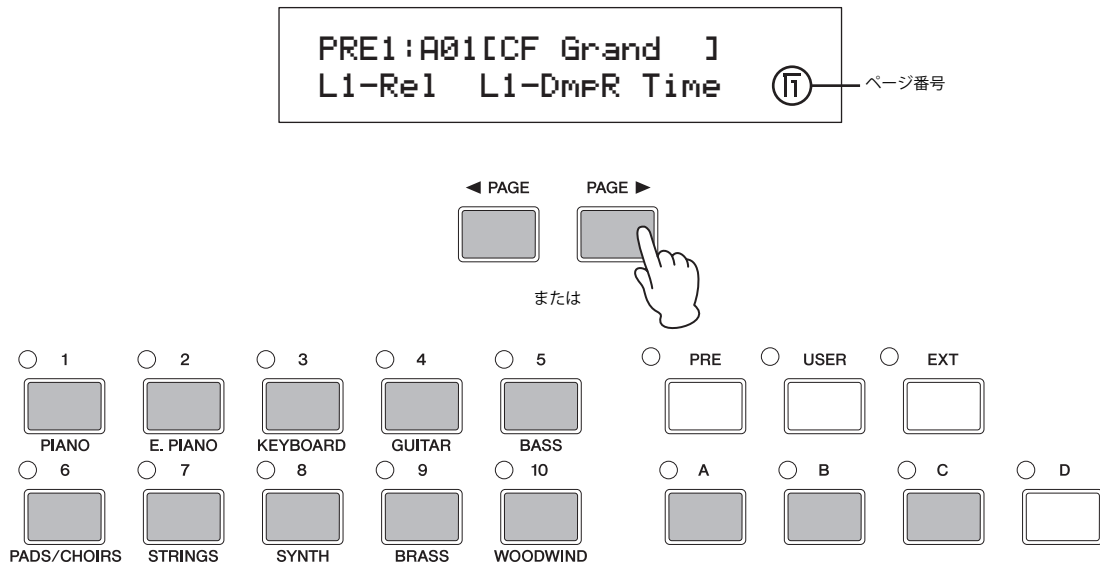
基本操作

ここでは、CP5/CP50の基本的な操作方法や画面表記の見方を説明します。

ページの切り替え

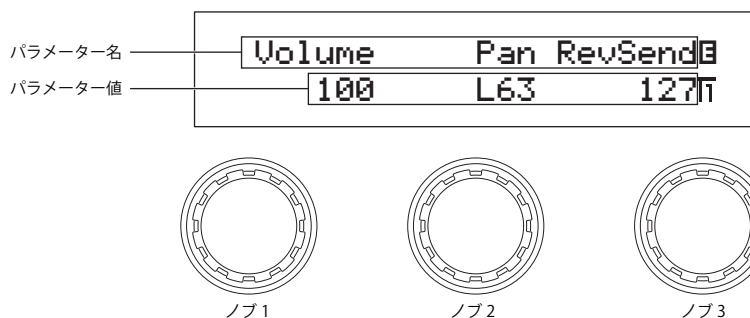
CP5/CP50 の設定画面は、ほとんどが複数ページ存在します。ページを切り替えるには、[◀ PAGE]/[PAGE ▶] ボタンを押すか、ナンバー[1]～[10]ボタンおよび[A]～[D]ボタンのうち、ページ番号に該当するボタンを押すと、ページが切り替わります。ページは最大13ページまであり、番号は以下の順番で割り振られています。

1、2、3、4、5、6、7、8、9、0、A、B、C



値の変更 / 設定

本体画面の下にあるノブ1～3を回す/押すと、各ノブに対応するパラメーター値の変更や設定ができます。ノブを右方向(時計回り)に回すと値が増加し、左方向(反時計回り)に回すと値が減少します。

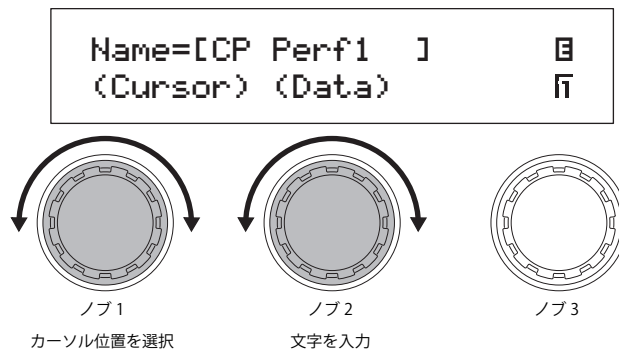


NOTE 現在選ばれているボイスに対応していないパラメーターは、パラメーター値が「---」と表示され、変更できません。

名前の設定

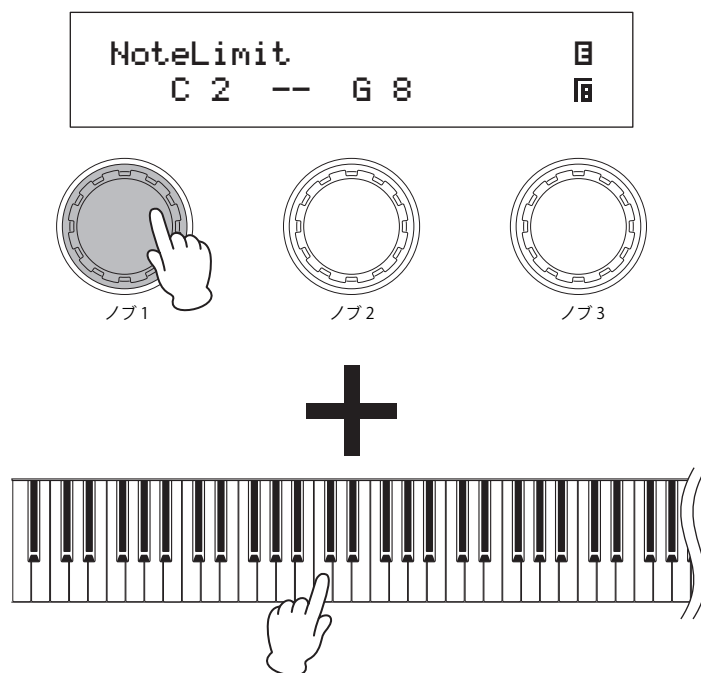
CP5/CP50 では、自分で編集したパフォーマンスに名前を設定できます。また、本体から USB フラッシュメモリーに保存 (セーブ) するファイルにも名前を設定できます。

各画面で名前を設定するには、画面上の「Cursor」パラメーターに対応するノブを回して文字を入力する位置を選択し、「Data」パラメーターに対応するノブを回して入力する文字を設定します。



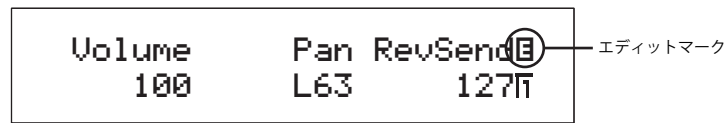
ノートナンバーの入力

ノートを設定するパラメーターの場合、対応するノブを回して設定する以外に、対応するノブを押しながら鍵盤を押すことでもノートを設定できます。



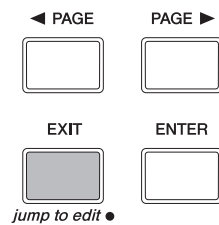
エディットマーク

本体のパラメーターを編集すると、画面右上に **E**(エディット) マークが表示されます。この表示により、選択中のパフォーマンスが設定を変更された状態にあり、まだ保存されていないことを確認できます。現在の状態を保存するには、ストア (50 ページ) の操作を行ないます。



現在表示されている画面からの抜け方

CP5/CP50のどの階層の画面を表示させていても、[EXIT]ボタンを押すと、1つ前の階層の画面やパフォーマンスのトップ画面に戻ることができます。



クイックガイド

CP5/CP50の基本的な使い方

ステージ上で演奏する

パフォーマンスを演奏する	22
バックイングに合わせて演奏する	37
マイク入力に合わせて演奏する (CP5のみ)	40
MIDI機器と接続して使用する	45

ライブの仕込みをする

オリジナルのパフォーマンスを作る	33
演奏を録音する	41

コンピューターと接続する

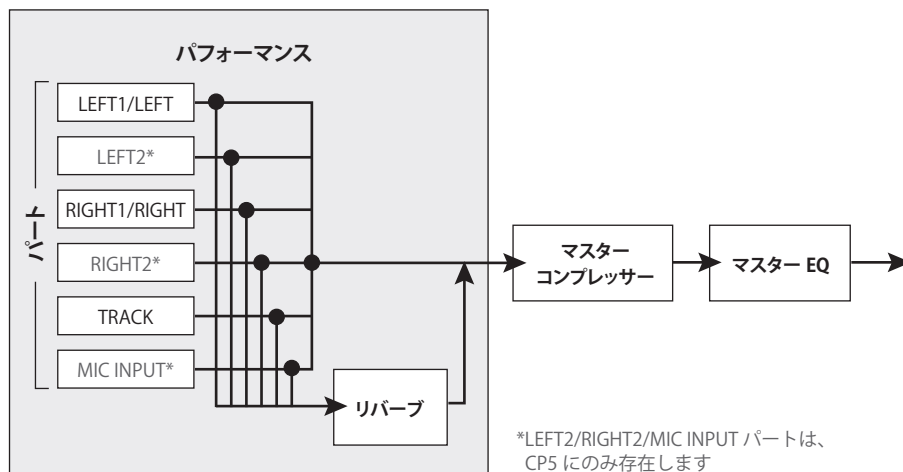
コンピューターと接続して使用する	46
------------------------	----

本体データの保存やバックアップをとる

設定を保存する	49
USBフラッシュメモリーとファイルをやりとりする	52

パフォーマンスを演奏する

CP5/CP50には、「パフォーマンス」という演奏プログラムが複数搭載されています。パフォーマンスは、複数のボイスを重ねて鳴らすための音色セットで、複数のパートとリバーブブロックで構成されています。全パートの音に共通のリバーブエフェクトが効果し、パフォーマンスの音が作られています。鳴らす環境に合わせて、マスターコンプレッサーとマスターEQを調整して、CP5/CP50の音が完成します。パフォーマンスについて詳しくは、リファレンスマニュアル(別PDFファイル)をご参照ください。



CP5/CP50 には、パフォーマンスを記憶させるためのメモリーが用意されています。メモリーには、大きく分けてプリセットパフォーマンスメモリー、ユーザーパフォーマンスメモリー、エクスターナルパフォーマンスメモリーの3種類があります。各メモリーの役割は、次のように異なります。

プリセットパフォーマンスメモリー ([PRE] ボタン)

あらかじめ本体に内蔵されたパフォーマンスが記憶されています。プリセットパフォーマンスメモリーには、3バンク (PRE 1～PRE 3バンク) が用意されており、その中にはA、B、C、Dの4つのグループがあり、各グループには10個のパフォーマンスが記憶されています。

ユーザーパフォーマンスメモリー ([USER] ボタン)

オリジナルのパフォーマンスを保存(ストア)しておくメモリーです。ユーザーパフォーマンスメモリーには、3バンク (USR 1～USR 3バンク) が用意されており、その中にはA、B、C、Dの4つのグループがあり、各グループには10個のパフォーマンスが記憶されています。

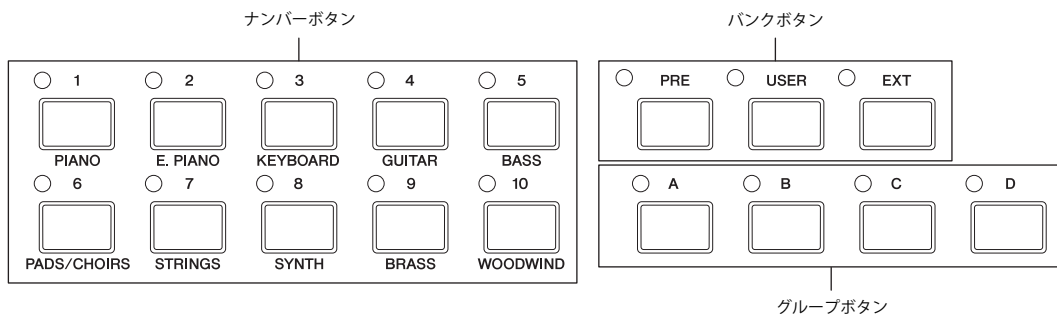
エクスターナルパフォーマンスメモリー ([EXT] ボタン)

本体に接続したUSB フラッシュメモリー上のメモリーです。オリジナルのパフォーマンスを保存(セーブ)できます。エクスターナルパフォーマンスメモリーには、3バンク (EXT 1～EXT 3) が用意されており、その中にはA、B、C、Dの4つのグループがあり、各グループには10個のパフォーマンスが記憶されています。また、USB フラッシュメモリーに保存したエクスターナルパフォーマンスデータを使う場合は、USB フラッシュメモリーを本体に接続して、エクスターナルパフォーマンスメモリーごと本体のDRAM にロードします。

NOTE パフォーマンスメモリーについて詳しくは、リファレンスマニュアル(別PDFファイル)をご参照ください。

パフォーマンスを選ぶ

CP5/CP50 のトップ画面で好きなパフォーマンスを選択して鍵盤を弾くことで、パフォーマンスを鳴らすことができます。ここでは例としてプリセットパフォーマンスを選んで演奏してみましょう。



- 1 パフォーマンスのトップ画面で[◀ PAGE]ボタンを押して1ページ目を表示させます。パフォーマンスのトップ画面は2ページあり、ここでは1ページ目を表示させます。

NOTE 1ページ目はパフォーマンス名やノブ1～3に割り当てられているパラメーターの名称が表示されるのに対し、2ページ目は選択中のパフォーマンスに割り当てられているバックイングソングが表示されます。

パフォーマンスのトップ画面(1ページ目)



NOTE ここに掲載しているパフォーマンスのトップ画面は操作説明のためのものです。したがって、実際とは異なる場合があります。

パフォーマンスを演奏する

- 2 [PRE] ボタンを何度か押して、プリセットバンクを選択します。
[PRE] ボタンを繰り返し押すことで、プリセット1バンク、プリセット2バンク、プリセット3バンクが切り替わります。プリセットバンクを選択すると、[PRE] ボタンのランプが点滅します。また、現在表示中のパフォーマンスに該当するバンクボタン、ナンバーボタンのランプも同時に点滅します。
 - 3 グループ[A]～[D] ボタンのうち、いずれかのボタンを押します。
選択したプリセットバンクの中のA/B/C/Dグループが選択されます。
 - 4 ナンバー[1]～[10] ボタンのうち、いずれかのボタンを押します。
パフォーマンスが確定し、該当するバンクボタン、グループボタン、ナンバーボタンのランプが点灯状態に変わります。
- NOTE** プリセットパフォーマンスの一覧は、データリスト(別PDFファイル)をご参照ください。
- 5 鍵盤を弾いてみましょう。

HINT

キーオンスタートについて

選択したパフォーマンスによっては、押鍵と同時にバックアップソング(37 ページ)の再生が開始されます。この機能をキーオンスタートといいます。再生を開始するきっかけになるキーは、ソング設定画面の3ページ目にある「StartKey」(リファレンスマニュアル参照)で設定されているキーになります。

パフォーマンスの選択時に [▶/||] (プレイ/ポーズ) ボタンのランプが点滅したら、押鍵と同時にバックアップソングが開始されます。押鍵前のランプが点滅している状態を、キーオンスタートのスタンバイ状態といいます。スタンバイ状態を解除するには、[■] (ストップ) ボタンを押します。
再生中のバックアップソングは、[■] (ストップ) ボタンを押すことで停止します。停止後、[■] (ストップ) ボタンを押しながら [▶/||] (プレイ/ポーズ) ボタンを押すことで、再度、キーオンスタートのスタンバイ状態にできます。

HINT

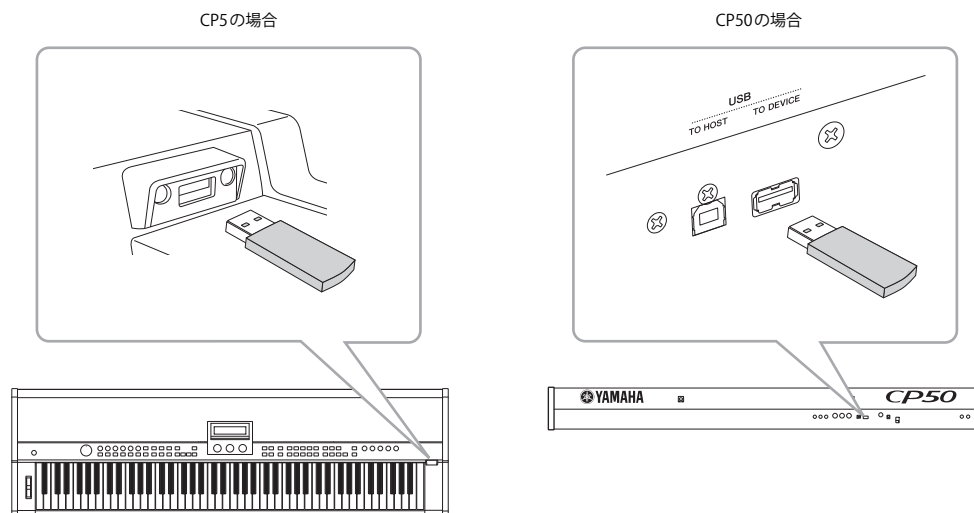
USBフラッシュメモリーに保存したエクスターナルパフォーマンスデータを本体で使う場合の手順

- 1 USBフラッシュメモリー上のエクスターナルパフォーマンスデータが、USBフラッシュメモリーのルートディレクトリーにあることを確認します。
- 2 USBフラッシュメモリーを本体に接続します。
USBフラッシュメモリー上のエクスターナルパフォーマンスデータが本体にロードされます。詳しくはリファレンスマニュアル(別PDFファイル)の「エクスターナルパフォーマンスを使う場合」をご参照ください。
- 3 パフォーマンスストップ画面で[EXT]ボタンを押し、使いたいパフォーマンスを選択します。
選択のしかたは、「パフォーマンスを選ぶ」の手順3以降と同じです。

HINT**USBフラッシュメモリーの接続**

USBフラッシュメモリーを本体のUSB TO DEVICE端子に接続します。USB TO DEVICE端子の形状に合うプラグを上下の向きに注意して差し込んでください。

NOTE 本機はUSB1.1に対応していますが、USB2.0の機器でも使用できます。ただし転送スピードはUSB1.1相当になりますので、ご了承ください。

**USB TO DEVICE端子ご使用上の注意**

本機にはUSB TO DEVICE端子があります。USB TO DEVICE端子にUSB機器を接続する場合は、以下のことをお守りください。

NOTE USB機器の取り扱いについては、お使いのUSB機器の取扱説明書もご参照ください。

・使用できるUSB機器

CP5/CP50でご利用いただけるUSB機器は、USBフラッシュメモリーのみです。動作確認済みUSBフラッシュメモリーについては、ご購入の前にインターネット上の下記URLでご確認ください。

<http://www.yamahasynth.com/jp/>

USBフラッシュメモリーの取り扱いについて

本機にUSBフラッシュメモリーを接続すると、楽器本体で制作したデータをUSBフラッシュメモリーに保存したり、USBフラッシュメモリーのデータを楽器本体にロードしたりできます。

・USBフラッシュメモリーのフォーマット

USBフラッシュメモリーの中には、本機で使用する前にフォーマットが必要なものがあります。USB TO DEVICE端子にUSBフラッシュメモリーを接続したときに、フォーマットを促すメッセージが表示された場合は、フォーマットを実行してください（リファレンスマニュアル参照）。

注記

フォーマットを実行すると、そのメディアの中身は消去されます。必要なデータが入っていないのを確認してからフォーマットしてください。

・誤消去防止

USBフラッシュメモリーには、誤ってデータを消してしまわないようライトプロテクト機能のついたものがあります。大切なデータが入っている場合は、ライトプロテクトで書き込みができないようにしましょう。逆にデータを保存する場合などは、ご使用前にお使いのUSBフラッシュメモリーのライトプロテクトが解除されていることをご確認ください。

・USBフラッシュメモリーの抜き差し

USBフラッシュメモリーを外すときは、ロード/セーブなどデータのアクセス中でないことをあらかじめ確認したうえで外してください。

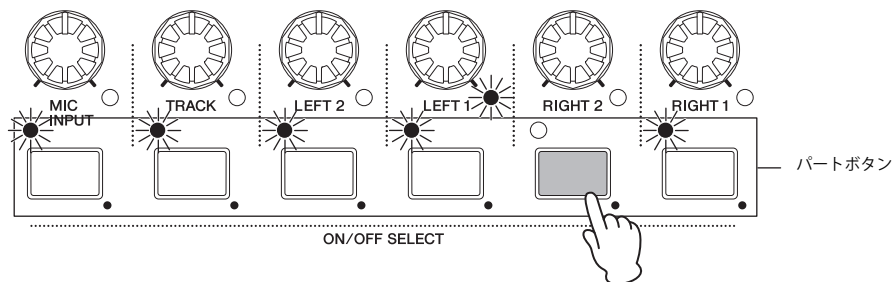
注記

USBフラッシュメモリーの頻繁な抜き差しをしないでください。楽器本体の機能が停止するおそれがあります。また、ロード/セーブなどデータのアクセス中やUSBフラッシュメモリーのマウント中は、USBフラッシュメモリーの抜き差しをしないでください。メモリーが壊れたり、楽器本体/メモリーのデータが壊れたりするおそれがあります。

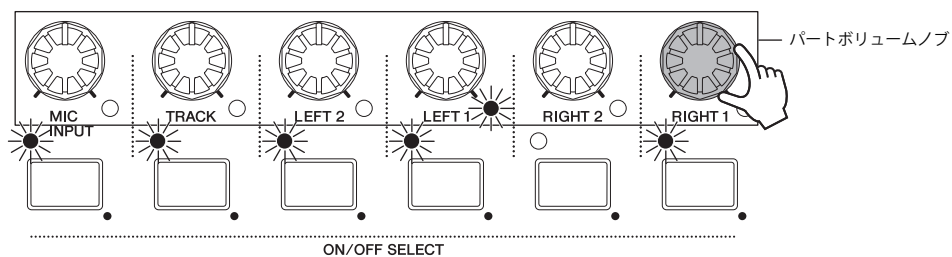
各パートのオン/オフやボリュームの調整をする

パフォーマンスは、LEFT/RIGHTパート (CP5: LEFT1/LEFT2/RIGHT1/RIGHT2パート、CP50: LEFT/RIGHTパート) とTRACKパートとMIC INPUTパート (CP5のみ) の複数のパートで構成されています。これらのパートは、個別にオン/オフしたり、ボリュームの調整ができます。

- 1 パートボタンを押して、パートのオン(ランプ点灯)/オフ(ランプ消灯)を設定します。
パートボタンを繰り返し押すことで、オン/オフを切り替えられます。



- 2 パートボリュームノブを回して、各パートの音量を調整します。
右に回すと音量が大きくなり、左に回すと音量が小さくなります。



NOTE イラストはCP5のもので、CP50の場合は、LEFTパート、RIGHTパート、TRACKパートのみになります。

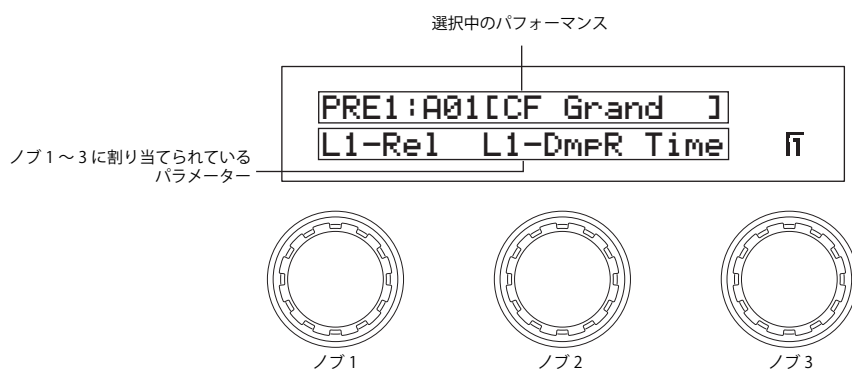
ノブ1～3を使って音に変化をつける

■ノブ1～3を操作する

本体の画面の下にあるノブ1～3には、パフォーマンスを構成するブロックのパラメーターがパフォーマンスごとに割り当てられています。該当するブロックは、プリアンプブロック、モジュレーションエフェクトブロック、パワーアンプ/コンプレッサーブロック (CP5のみ)、リバーブブロックです。割り当てられているパラメーターは、パフォーマンスストップ画面に表示されています。パラメーター名の左端についている数字は、パートの番号を表しています。たとえば、「L1-Dcy」はLEFT1パートの「Decay (ディケイタイム)」を表しています。ただし全パートに共通のパラメーターについては、左端に数字は表示されません。

ノブ1～3を回すと、各ノブに割り当てられているパラメーターの設定値を変更でき、選択中のパフォーマンスの音を変化させることができます。

パフォーマンスのトップ画面(1ページ目)

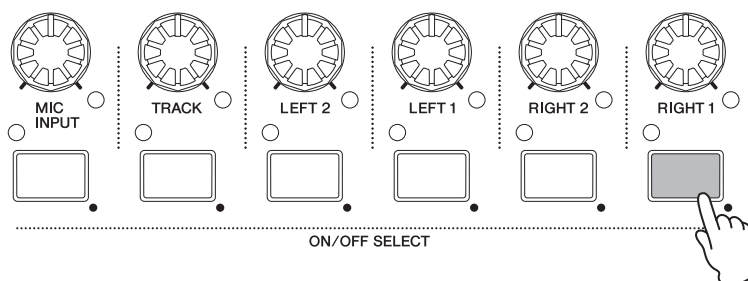


パフォーマンスのトップ画面の1ページ目において、各ノブに割り当てられているパラメーターの設定値を確認したい場合は、ノブ1～3を押します。

■ノブ1～3に割り当てるパラメーターを設定する

ノブ1～3に割り当てられているパラメーターは、次の手順で変更できます。

- 1 あらかじめ、どのパートのパラメーターを割り当てるかを決め、該当パートのパートボタンを長押し(1秒以上押し続けたままに)します。
該当パートが選択されます。



NOTE [EXIT] ボタンを押しながら [◀PAGE]/[PAGE▶] ボタンを押すことでも、パートの選択ができます。

パフォーマンスを演奏する

- 2 [STORE/ASSIGN] ボタンを長押し(1秒以上押し続けたままに)します。
ブロックの選択を促す画面が表示され、[PRE-AMP] ボタン、[MOD-FX] ボタン、[PWR-AMP] ボタン (CP5のみ)、
[REVERB] ボタンの各ランプが点滅します。

```
Select PreAmp/ModFx/  
PwrAmp/Reverb Sw.
```

NOTE 各ブロックの設定画面で[STORE/ASSIGN] ボタンを長押しした場合は、手順5からの操作になります。

- 3 [PRE-AMP] ボタン、[MOD-FX] ボタン、[PWR-AMP] ボタン (CP5のみ)、[REVERB] ボタンのうちいずれかのボタンを押します。
ブロックが確定し、パラメーターの選択を促す画面が表示されます。

```
Select Parameter.  
Bass Treble Speed
```

NOTE LEFT/RIGHTパート以外を選択している場合は、[REVERB] ボタンのみが選択できます。

NOTE LEFT/RIGHTパートを選択している場合、PIANO/E.PIANOカテゴリー以外のボイスが設定されていると、[PRE-AMP] ボタンは選択できません。

- 4 設定したいパラメーターの表示と対応しているノブを押します。
パラメーターが確定し、割り当て先のノブの選択を促す画面が表示されます。

```
Select assignable knob.  
L1-Rel L1-DmP Time
```

- 5 割り当て先にするノブを押します。
割り当て先のノブが確定し、パフォーマンスのトップ画面に戻ります。画面上で、ノブに割り当てられているパラメーターが変更されていることが確認できます。

HINT

ノブ1~3に設定したパラメーターを解除する方法

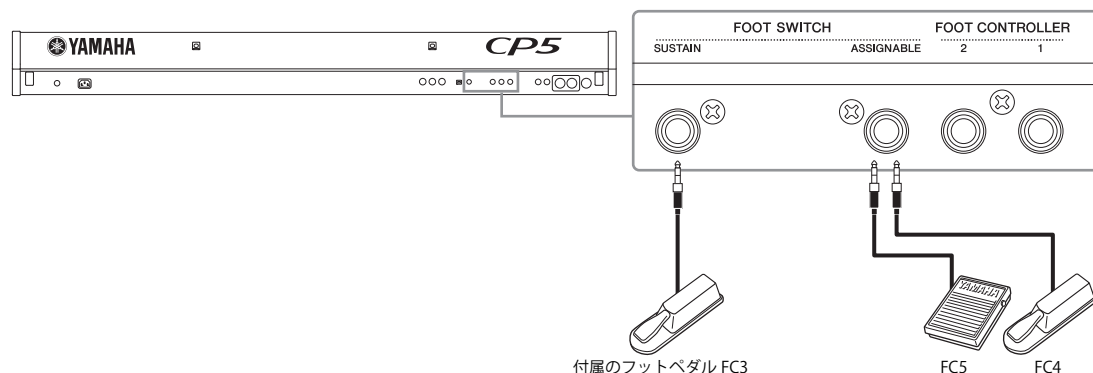
パフォーマンスのトップ画面の1ページ目で、[EXIT] ボタンを押しながら設定を解除したいノブを押します。該当ノブには何も割り当てられていない状態になります。

NOTE ボイスまたはプリアンプブロックのタイプ、モジュレーションエフェクトのタイプ、パワーアンプ/コンプレッサーブロックのタイプ (CP5のみ)、リバーブブロックのタイプを変更した場合 (35 ページ)、ノブ1~3に割り当てられているパラメーターが自動的に切り替わったり、パラメーター表示欄が「***」となり何も割り当てられていない状態になったりします。ボイスやエフェクトタイプなどを変更した場合は、ノブ1~3に割り当てられているパラメーターも設定しなおしてください。

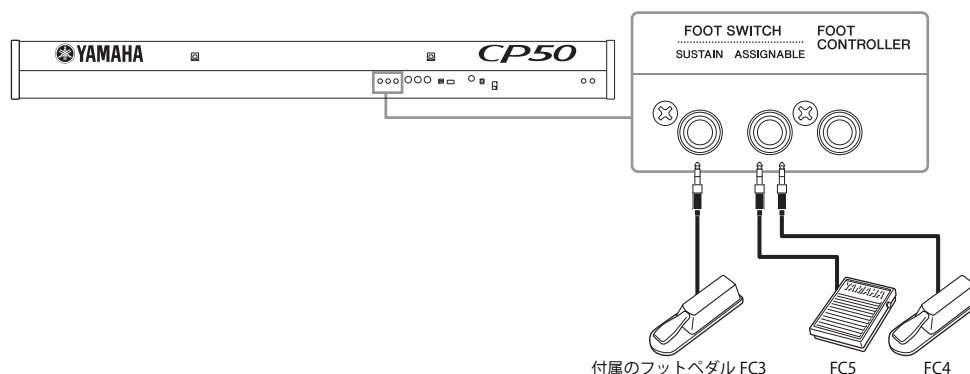
ペダルを使って演奏する

付属のフットペダルFC3を本体のFOOT SWITCH [SUSTAIN]端子に接続して(16 ページ)、演奏しながら使ってみましょう。接続する端子によって、割り当てられる機能が異なります。各端子は、以下の用途で使えます。

CP5の場合



CP50の場合



FOOT SWITCH [SUSTAIN]端子

付属のフットペダルFC3を接続します。このペダルを踏んでいる間、弾いた音を鍵盤から指を離しても長く響かせることができます。またサステインペダルはハーフダンパー演奏に対応しているので、踏み込むほど音が長く伸びます。ハーフダンパー機能のオン/オフは、ユーティリティー設定画面の3ページ目にある「SusPedal(サステインペダル)」パラメーターで設定できます。詳しくはリファレンスマニュアル(別PDFファイル)をご参照ください。

NOTE 別売のフットスイッチFC4/FC5もFOOT SWITCH [SUSTAIN]端子に接続できます。ただし、FC4/FC5はハーフダンパー演奏に対応していません。別売のペダルを接続する場合は、接続するペダルによって、ユーティリティーの「SusPedal(サステインペダル)」の設定を変更してください。

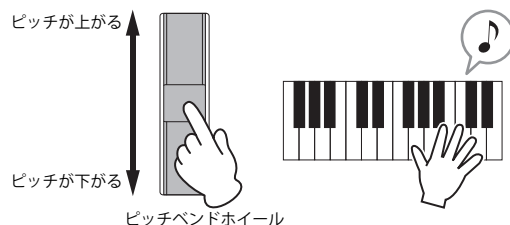
FOOT SWITCH [ASSIGNABLE]端子

別売のフットスイッチFC4/FC5を接続して、さまざまな機能をコントロールするペダルとして使えます。機能の割り当ては、コモン設定画面の3～5ページ目で設定できます。詳しくは、リファレンスマニュアル(別PDFファイル)をご参照ください。

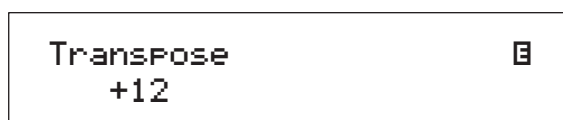
NOTE FOOT SWITCH [ASSIGNABLE]端子に接続したFC4/FC5を使って、バックアップソングの再生/停止ができます。この場合、ユーティリティー設定画面の4ページ目で、「CtrlAsn」=「FS」、「CtrlNo.」=「98(Ply/Stop)」に設定します。

音のピッチを変える

鍵盤演奏しながら本体のピッチベンドホイールを動かすと、鍵盤演奏で鳴っている音のピッチを上げたり下げたりできます。ホイールを奥に回すとピッチが上がり、手前へ回すとピッチが下がります。ピッチベンドホイールから手を離すと、自動的に真ん中の位置に戻り、本来のピッチに戻ります。鍵盤演奏をしながら、ピッチベンドホイールを上下に動かしてみましょう。



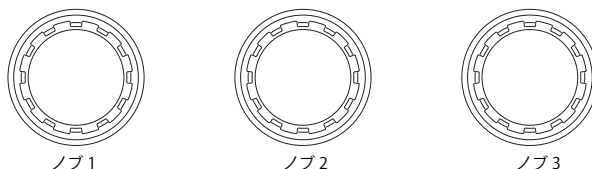
また、本体フロントパネル上の右側にある [TRANSCOPE] ボタンを押すと、トランスポーズ設定画面が表示され、ノブ1を回して、鍵盤の音程を半音単位で移調できます。設定値は-12～+12 (semitones) になります。



マスターコンプレッサーとマスターEQを調整する

マスターコンプレッサーブロックとマスターEQブロックでは、最終的なダイナミクスの調整および音質補正を設定するブロックです。これらは全パフォーマンスに共通した設定になり、CP5/CP50を鳴らす環境に応じて調整します。フロントパネル上の右側にある [MASTER COMPRESSOR] ボタンや [MASTER EQUALIZER] ノブを使って、音を調整してみましょう。

- 1 [MASTER COMPRESSOR] ボタンを長押し (1秒以上押したままに) します。
マスターコンプレッサーの設定画面が表示されます。



- 2 鍵盤を弾いて音を鳴らしながら、ノブ1～3を回して各パラメーターの値を調整します。

NOTE 各パラメーターについて、詳しくはリファレンスマニュアルをご参照ください。

- 3 [◀PAGE]/[PAGE▶] ボタンを押してページを切り替えながら、変更したいすべてのパラメーターの値を調整します。

4 鍵盤を弾いて音を鳴らしながら、フロントパネル上の右側にある [MASTER EQUALIZER] ノブを回して音質を調整します。

CP5の場合は[LOW]ノブ、[LOW MID]ノブ、[MID]ノブ、[HIGH MID]ノブ、[HIGH]ノブを、CP50の場合は[LOW]ノブ、[MID]ノブ、[HIGH]ノブを使って、各周波数帯域におけるゲインを調整します。

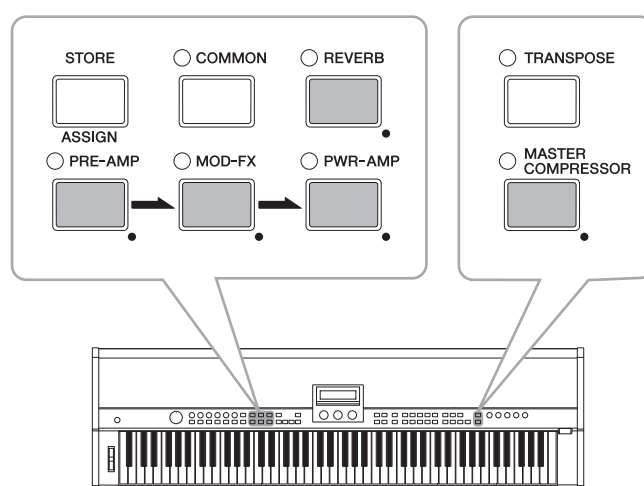


パフォーマンスを構成するブロックのオン/オフを切り替える

パフォーマンスのLEFT/RIGHTパートは、鍵盤演奏やMIDI入力によって内蔵音源を使って発音するパートです。このパートは、ボイスブロック、プリアンプブロック、モジュレーションエフェクトブロック、パワーアンプ/コンプレッサーブロック (CP5のみ) で構成されています (リファレンスマニュアル参照)。そのうちのプリアンプブロック、モジュレーションエフェクトブロック、パワーアンプ/コンプレッサーブロック (CP5のみ)、全パートに共通のリバーブブロック、また全パフォーマンスに共通のマスターコンプレッサーブロックは、パフォーマンス演奏中に簡単にオン/オフを切り替えることができます。[PRE-AMP] ボタン/[MOD-FX] ボタン/[PWR-AMP] ボタン (CP5のみ)/[REVERB] ボタン/[MASTER COMPRESSOR] ボタンを押すことで、選択中のパートの該当ブロックがオン (ランプ点灯)/オフ (ランプ消灯) に切り替わります。ただしプリアンプブロックは、該当ボタンを押したときの動きが他のブロックとは異なります。選択中のパートに割り当てられているボイスがPIANO/E.PIANOカテゴリー以外のボイスの場合、プリアンプブロック全体が常にオフになります。選択中のパートに割り当てられているボイスがPIANO/E.PIANOカテゴリーのボイスの場合、[PRE-AMP] ボタンを押すと、プリアンプブロックの状態が以下のとおりになります。

選択中のパートに割り当てられているボイス	[PRE-AMP] ボタンを押した場合のプリアンプブロックの状態
71Rd I, 73Rd I, 75Rd I, 78Rd II, 69Wr, 77Wr	ビブラート効果のオン/オフ。その他のパラメーターは常に有効。
上記以外のPIANO/E.PIANOカテゴリーのボイス	プリアンプブロック全体が常に有効。

パフォーマンスを演奏しながら各ブロックのボタンを押して、オン/オフを切り替えてみましょう。



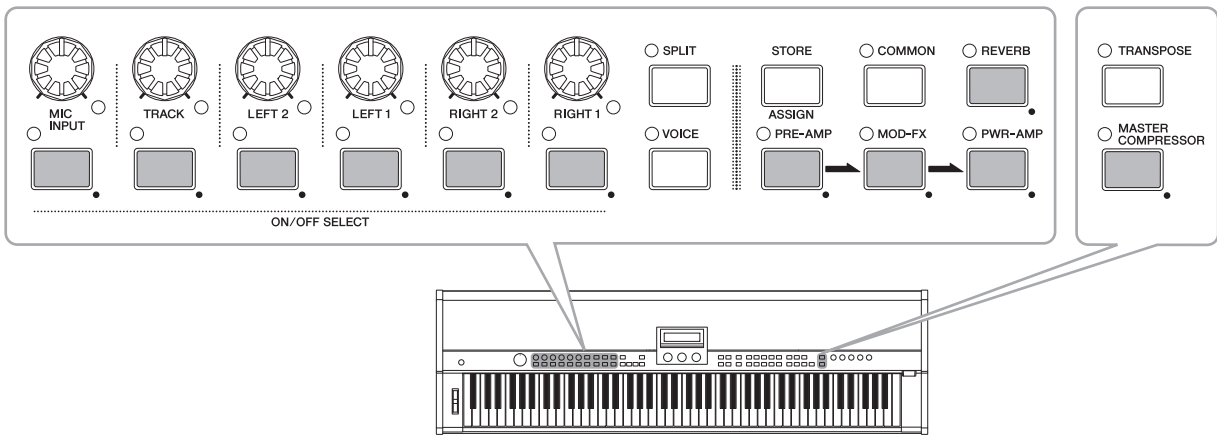
HINT

ボタンのランプの点灯状態

パフォーマンスを構成するパートおよび一部のブロックのボタンにあるランプの点灯状態が、本体の設定によって次のように異なります。該当するボタンは、パートボタン (CP5 の場合: [LEFT1]/[LEFT2]/[RIGHT1]/[RIGHT2]/[TRACK]/[MIC INPUT] ボタン、CP50 の場合: [LEFT]/[RIGHT]/[TRACK] ボタン) と、[PRE-AMP] ボタン、[MOD-FX] ボタン、[PWR-AMP] ボタン (CP5 のみ)、[REVERB] ボタン、[MASTER COMPRESSOR] ボタンです。

- ・ 消灯 パートまたは各ブロックのオフ
- ・ 点灯 パートまたは各ブロックのオン
- ・ 点滅 (点灯時間が長く、消灯時間が短い場合) パートまたは各ブロックがオンの状態で、該当パート/ブロックの設定画面を表示中
- ・ 点滅 (点灯時間が短く、消灯時間が長い場合) パートまたは各ブロックがオフの状態で、該当パート/ブロックの設定画面を表示中

NOTE [PRE-AMP] ボタンが消灯または点滅 (点灯時間が短く、消灯時間が長い場合) している場合は、選択中のパートに設定されているボイスによって、機能状態が異なります。詳しくは、クイックガイドの「パフォーマンスを構成するブロックのオン/オフを切り替える」をご参照ください。

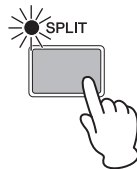


NOTE [VOICE] ボタンと [COMMON] ボタンのランプは、消灯と点灯の2種類の状態になります。ランプが点灯するとボイス/コモンの設定画面が表示されていることを示し、ランプが消灯するとボイス/コモンの設定画面以外が表示されていることを示します。

レイヤー/スプリットの設定を変える

CP5/CP50 では、LEFT/RIGHT パートを重ねて鳴らす (レイヤー) 場合と、左手鍵域と右手鍵域とに分けて鳴らす (スプリット) 場合との切り替えが簡単にできます。

本体パネル上の [SPLIT] ボタンを押すと、レイヤー (ランプ消灯)/スプリット (ランプ点灯) に切り替わります。



NOTE レイヤーの場合は、各パートのノートリミット設定に従った発音領域で、各パートが重ねられます。スプリットの場合は、スプリットポイントの設定に従って、LEFT のパートが鍵盤低音部に、RIGHT のパートが鍵盤高音部に分けられます。詳しくは、リファレンスマニュアル (別PDFファイル) をご参照ください。

オリジナルのパフォーマンスを作る

パフォーマンスを構成するブロックやLEFT/RIGHTパートの設定をすることで、オリジナルのピアノサウンドを作成できます。次の設定手順にしたがって、音を聴きながら各ブロックを編集してみましょう。ここでは、LEFT/RIGHTパートを構成するボイスブロック、プリアンプブロック、モジュレーションエフェクトブロック、パワーアンプ/コンプレッサーブロック (CP5のみ) を先に設定し、その後、LEFT/RIGHTパート固有のパラメーター、コモンパラメーター、リバーブブロックを設定してパフォーマンスを作成し、最後に音を鳴らす環境に合わせて、マスターコンプレッサーおよびマスターEQを設定するという順番を例にして説明します。

NOTE パフォーマンスを構成するブロックについて詳しくは、リファレンスマニュアル(別PDFファイル)をご参照ください。

1 編集対象とするパフォーマンスナンバーを選択します (23 ページ)。

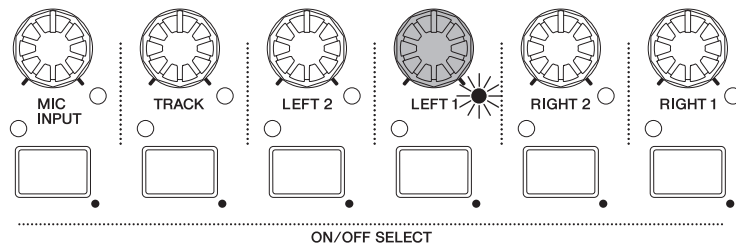
注記

エクスターナルバンク上でパフォーマンスを作成する場合は、USBフラッシュメモリーを先に本体に接続してから行なってください。本体に一度接続したことのあるUSBフラッシュメモリーを接続すると、自動的にUSBフラッシュメモリー上にあるエクスターナルメモリーのファイルが本体にロードされ、本体で作成していたエクスターナルバンクのデータが上書きされて消えてしまいます。

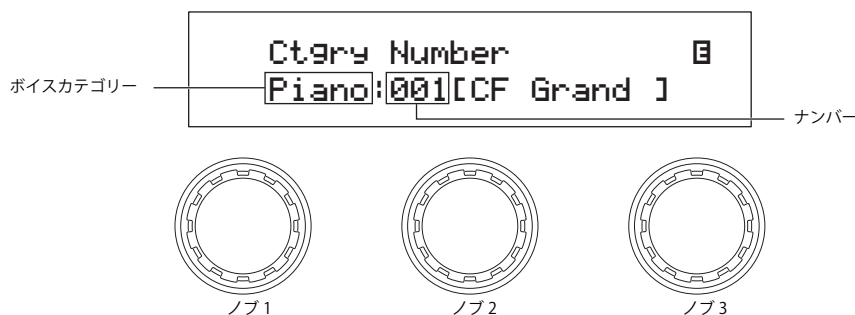
2 LEFT/RIGHTパートのうち、編集したいパートのボタンを長押し (1秒以上押し続けたままに) します。該当パートが選択され、該当パートのボリュームノブのランプが点灯します。

NOTE この操作によって、該当パートの設定画面が表示されますが、ここでは編集する必要はありません。

NOTE [EXIT] ボタンを押しながら [◀PAGE]/[PAGE▶] ボタンを押すことでもパートを選択できます。



3 [VOICE] ボタンを押します。ボイス設定画面が表示されます。



オリジナルのパフォーマンスを作る

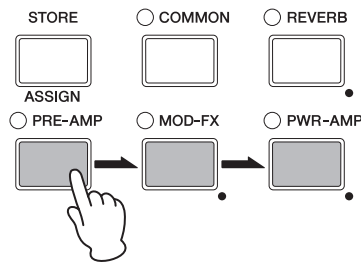
- 4 ノブ1を回して、ボイスカテゴリーを選択します。
ボイスカテゴリーの種類は以下のとおりです。

Piano	アコースティックピアノ	Pad	シンセパッド、クワイア
E.Piano	エレクトリックピアノ、シンセピアノ	Strings	セクションストリングス、ソロストリングス、ハーブ、シンセストリングス
Key	オルガン、ハーブシコード、アコーディオン、その他キーボード	Synth	シンセサイザー
Guitar	アコースティックギター、エレクトリックギター、三味線、マレット系音色	Brass	ソロブラス、ブラスアンサンブル、シンセブラス
Bass	アコースティックベース、エレクトリックベース、シンセベース	Wind	木管楽器、ハーモニカ、尺八、バグパイプ

HINT

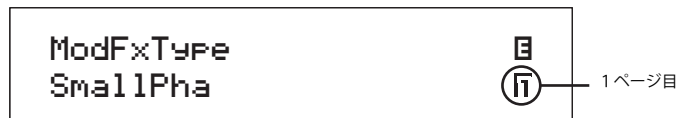
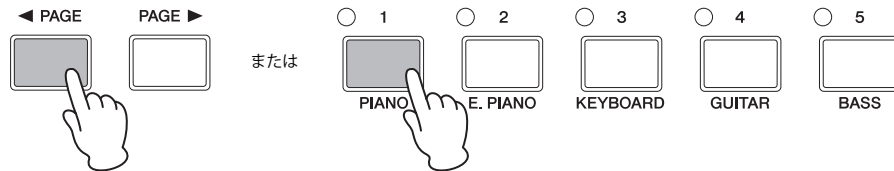
ナンバー[1]～[10]ボタンを使ってカテゴリーを選択することもできます。カテゴリーの名前はナンバー[1]～[10]ボタンの下に書かれているので、探したいカテゴリー名が書かれているボタンを押すと、選択されます。

- 5 ノブ2を回して、ボイスナンバーを選択します。
すべてのボイスについては、データリスト (別PDFファイル) をご参照ください。また、PIANO/E.PIANOカテゴリーのボイスについては、リファレンスマニュアル (別PDFファイル) に解説を掲載しているので、ご参照ください。
- 6 [PRE-AMP] ボタン (PIANO/E.PIANOカテゴリーのボイスに設定した場合のみ)、[MOD-FX] ボタン、[PWR-AMP] ボタン (CP5のみ) のうち、編集したいブロックのボタンを長押し (1 秒以上押したままに) します。
該当するブロックの設定画面が表示されます。



NOTE [EXIT/jump to edit] ボタンを押しながら該当ブロックのボタンを押しても、設定画面を表示できます。

- 7 モジュレーションエフェクトまたはパワーアンプ/コンプレッサーの設定画面の場合は、[◀PAGE] ボタンまたはナンバー[1] ボタンを押して、設定画面の1ページ目を表示させます。プリアンプの設定画面の場合は、そのまま手順9に進みます。

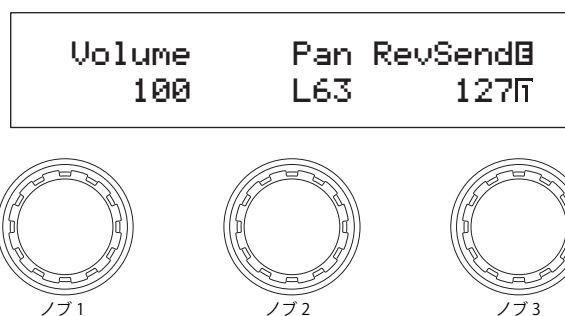


- 8 ノブ1/2/3を回して該当するブロックのタイプを設定します。
- 9 [◀PAGE]/[PAGE▶] ボタンを押してページを切り替えながら、編集したいパラメーターに対応するノブを回します。

NOTE 各パラメーターについて詳しくは、リファレンスマニュアル (別PDFファイル) をご参照ください。

10 手順6に戻って、他のブロックの設定を行いません。設定が終わったら、手順11に進みます。

11 現在選択中のパートのボタンを長押し(1秒以上押したままに)します。
CP5の場合は[LEFT1]/[LEFT2]/[RIGHT1]/[RIGHT2]ボタン、CP50の場合は[LEFT]/[RIGHT]ボタンのうち、ボリュームノブのランプが点灯しているパートが選択中のパートです。該当パートのボタンを押すと、パート設定画面が表示されます。

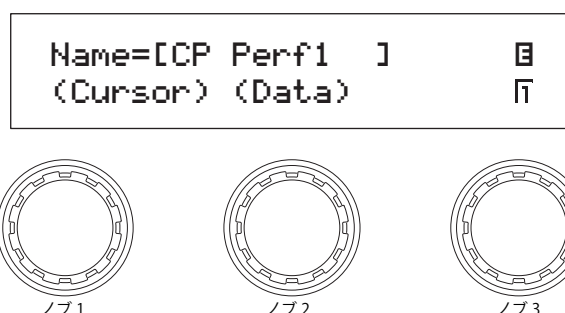


12 [◀PAGE]/[PAGE▶]ボタンを押してページを切り替えながら、編集したいパラメーターに対応するノブを回します。

NOTE 各パラメーターについて詳しくは、リファレンスマニュアル(別PDFファイル)をご参照ください。

13 手順2に戻って、他のパートの編集も同様に行いません。LEFT/RIGHTパートの全パートの設定が完了したら、手順14に進みます。

14 [COMMON]ボタンを押します。
コモンの設定画面が表示されます。



15 [◀PAGE]/[PAGE▶]ボタンを押してページを切り替えながら、編集したいパラメーターに対応するノブを回します。

NOTE 各パラメーターについて詳しくは、リファレンスマニュアル(別PDFファイル)をご参照ください。

NOTE 名前の設定方法については、「基本操作」(20ページ)をご参照ください。

16 [REVERB]ボタンを長押し(1秒以上押したままに)します。
リバーブの設定画面が表示されます。

NOTE [EXIT/jump to edit]ボタンを押しながら[REVERB]ボタンを押しても、設定画面を表示できます。

17 [◀PAGE]ボタンまたはナンバー[1]ボタンを押して、設定画面の1ページ目を表示させます。



18 ノブ1を回してリバーブのタイプを設定します。

19 [◀PAGE]/[PAGE▶] ボタンを押してページを切り替えながら、編集したいパラメーターに対応するノブを回します。

NOTE 各パラメーターについて詳しくは、リファレンスマニュアル(別PDFファイル)をご参照ください。

20 [STORE] ボタンを押して、変更したパフォーマンスを保存(ストア)します。

ボイスブロック、プリアンプブロック、モジュレーションエフェクトブロック、パワーアンプ/コンプレッサーブロック(CP5のみ)、パートパラメーター、コモンパラメーター、リバーブブロックの設定は、パフォーマンスとして保存できます。保存方法の詳細については、50 ページをご参照ください。

NOTE エクスターナルメモリーに保存する場合は、[STORE] ボタンを押す前に USB フラッシュメモリーを本体の USB TO DEVICE 端子に接続してください。

21 [MASTER COMPRESSOR] ボタンを長押し(1 秒以上押し続けたままに)します。

マスターコンプレッサーの設定画面が表示されます。

NOTE [EXIT/jump to edit] ボタンを押しながら [MASTER COMPRESSOR] ボタンを押しても、設定画面を表示できます。

22 [◀PAGE]/[PAGE▶] ボタンを押してページを切り替えながら、編集したいパラメーターに対応するノブを回します。

NOTE 各パラメーターについて詳しくは、リファレンスマニュアル(別PDFファイル)をご参照ください。

23 本体パネルの右側にある [MASTER EQUALIZER] ノブを回して、音質を調整します。

24 [STORE] ボタンを押して、マスターコンプレッサーおよびマスターEQの設定を保存します。

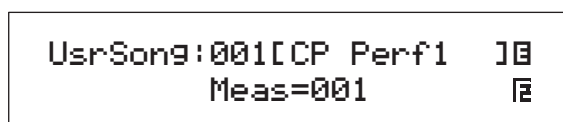
[MASTER EQUALIZER] ノブを使ったマスターEQの設定は、ユーティリティーのマスターEQのパラメーターと連動しています。したがってマスターコンプレッサーとマスターEQの設定は、本体のシステム設定として保存できます。保存方法の詳細については、51 ページをご参照ください。

バックキグに合わせて演奏する

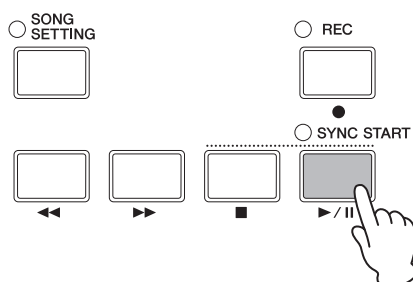
CP5/CP50では、バックキグソグを鳴らしながら演奏ができます。バックキグソグとして設定できるデータは、プリセットドラムパターンとユーザーソグとWaveファイルになります。1つのパフォーマンスに対して、1つのデータをバックキグソグとして設定できます。ここでは、バックキグソグを活用する場合の手順について説明します。バックキグソグに関して詳しくは、リファレンスマニュアル(別PDFファイル)の「CP5/CP50のしくみ」にある「ソグ設定部」をご参照ください。

現在設定されているバックキグソグの確認/再生

- 1 パフォーマンスのトップ画面で、演奏したいパフォーマンスを選択します(23 ページ)。
- 2 [PAGE▶]ボタンを押して、パフォーマンスストップ画面の2ページ目を表示させます。現在設定されているバックキグソグが表示されます。



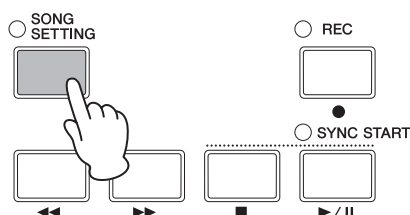
- 3 [▶/||] (プレイ/ポーズ) ボタンを押して、設定されているバックキグソグを再生します。鍵盤演奏をしながらバックキグソグを再生できます。



- 4 [■] (ストップ) ボタンを押して、バックキグソグを停止します。

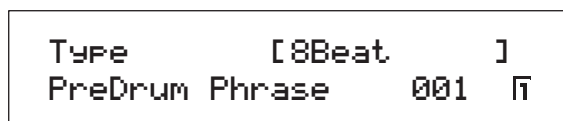
バックキグソグの設定

- 1 バックキグにWaveファイルを設定したい場合は、あらかじめ対象のファイルをUSBフラッシュメモリーのルートディレクトリーに保存し、そのUSBフラッシュメモリーを本体のUSB TO DEVICE端子に接続します。
- 2 [SONG SETTING] ボタンを押します。



バックキグに合わせて演奏する

- 3 [◀PAGE] ボタンまたはナンバー[1] ボタンを押して、ソング設定画面の1ページ目を表示させます。バックキグのタイプとナンバーを設定する画面が表示されます。



- 4 ノブ1を回してバックキグのタイプを選択します。
- 5 プリセットドラム(PreDrum)を選択した場合は、ノブ2を回して設定対象となるドラムフレーズ(Phrase)かドラムキット(Kit)を選択し、その後ノブ3を回してドラムフレーズ/ドラムキットのナンバーを選択します。ユーザーソング(UsrSong)またはWaveファイルを選択した場合は、ノブ3を回してナンバーまたはファイルを選択します。

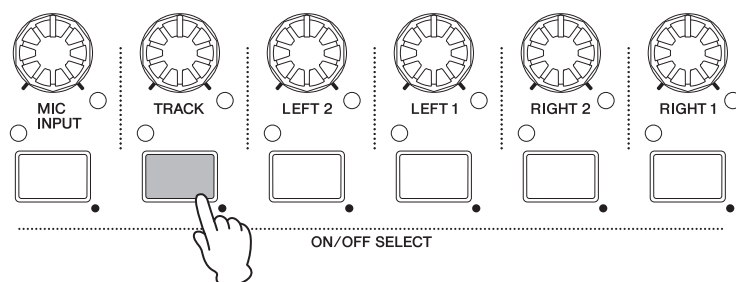
- 6 [PAGE▶] ボタンを押して2/3ページ目を表示し、ノブ1/2/3を回してテンポやビート、名前などの設定をします。

NOTE 本体で録音したWaveファイルを選択した場合、ファイル名の7~8文字目の記号({}) はそのままにしてください。変更すると、本体での再生音量が非常に小さくなります。

⚠注意 本体以外で生成したWaveファイルの名前を変更したい場合、7~8文字目に}}をつけしないでください。7~8文字目に}}をつけると、本体で再生したときに自動的に音量が加算されて大音量になる可能性があります。

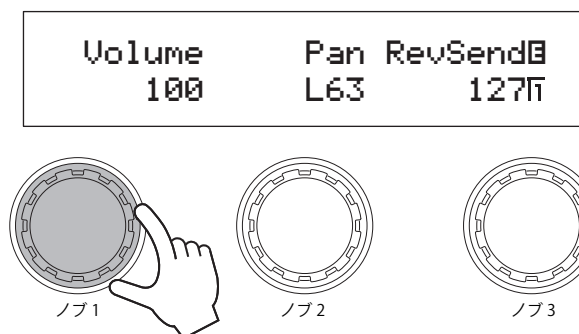
NOTE 各パラメーターについて詳しくは、リファレンスマニュアル(別PDFファイル)をご参照ください。

- 7 バックキグのタイプをプリセットドラムパターン(PreDrum)またはWaveファイル(Wave)に設定した場合は、[TRACK] ボタンを長押し(1秒以上押したままに)します。TRACKパートの設定画面が表示されます。ユーザーソング(UsrSong)に設定した場合は、そのまま手順10に進みます。



NOTE [EXIT/jump to edit] ボタンを押しながら[TRACK] ボタンを押しても、設定画面を表示できます。

- 8 ノブ1/2/3を回して、TRACKパートのボリュームやパン、リバーブセンドを設定します。



NOTE TRACKパートのボリュームの設定は、[TRACK]ノブを回すことでもできます。

⚠注意 本体以外で生成したWaveファイルの中には音量が大きいものがあります。これらのWaveファイルをバックキグソグとして選択した場合は、事前にボリューム調整をせずにWaveファイルを再生させると大音量を鳴らすことになります。そのため、再生前にTRACKパートのボリュームを必ず最小(0)に設定してください。その後、手順11でWaveファイルを再生させながら、TRACKパートのボリュームをゆっくり上げて調整してください。

- 9 [EXIT]ボタンを押し、パフォーマンスのトップ画面に戻ります。
- 10 [TRACK]ボタンのランプが点灯していることを確認します。
ランプが消灯している場合は、[TRACK]ボタンを押ししてランプを点灯させます。
- 11 鍵盤を演奏しながら、[▶/■](プレイ/ポーズ)ボタンを押します。
設定したバックキグソグが鍵盤演奏と一緒に再生されます。バックキグソグを停止する場合は、[■](ストップ)ボタンを押します。

HINT

キーオンスタートによってバックキグを再生させる場合

CP5/CP50では、鍵盤を押ししてバックキグの再生を開始させるキーオンスタート機能があります。この機能を利用するには、以下の手順を行ないます。

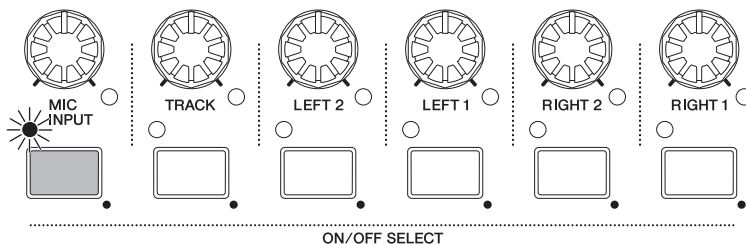
- [SONG SETTING]ボタンを押し、さらにナンバー[3]ボタンを押します。
ソグ設定画面の3ページ目が表示されます。
- ノブ1を回して、「StartKey(スタートキー)」を設定します。
「all」は、どの鍵盤を押しても再生が始まる設定です。
- [▶/■](プレイ/ポーズ)ボタンのランプが点灯している場合は、[■](ストップ)ボタンを押しながら[▶/■](プレイ/ポーズ)ボタンを押します。
[▶/■](プレイ/ポーズ)ボタンのランプが点滅し、バックキグソグ再生のスタンバイ状態になります。
- 手順2で「StartKey」に設定したキーを押します。
設定されているバックキグソグが再生されます。バックキグソグを停止する場合は、[■](ストップ)ボタンを押します。

NOTE ソグ設定画面の3ページ目にある「AutoKeyOn(オートキーオン)」(リファンレンスマニュアル参照)をオンにすることで、パフォーマンス切り替え時に自動的にキーオンスタートのスタンバイ状態にすることができます。

マイク入力と合わせて演奏する (CP5のみ)

CP5のリアパネルには[MIC INPUT]端子があり、マイクを接続して弾き語り演奏などに活用できます。[MIC INPUT]端子からの信号には本体内蔵のエフェクトをかけることができます。ここでは、マイクを接続して歌いながら演奏する場合を例として説明します。

- 1 リアパネルの[MIC INPUT]端子にマイクを接続します。
- 2 [MIC INPUT]ボタンのランプが点灯していることを確認します。
ランプが消灯している場合は、[MIC INPUT]ボタンを押してランプを点灯させます。



- 3 本体パネルの左側にあるGAINノブを回して、入力ゲインを調整します。
GAINノブを右に回すと、入力ゲインが大きくなります。最も大きな音を入力したときに、GAINノブの上にあるピークランプが一瞬光る程度にGAINノブを調整します。
- 4 必要に応じて、[MIC INPUT]ボタンを長押し(1秒以上押したままに)して、ボリュームやパン、エフェクトを設定します。

NOTE 各パラメーターについては詳しくは、リファレンスマニュアル(別PDFファイル)をご参照ください。

NOTE MIC INPUTパートのボリュームの設定は、[MIC INPUT]ノブを回すことでもできます。

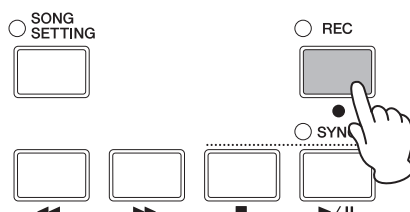
- 5 本体に接続したマイクを使って歌いながら、鍵盤を演奏してみましょう。

演奏を録音する

CP5/CP50の録音機能を使うと、鍵盤演奏をユーザーソング(MIDIデータ)として本体に録音したり、Waveファイル(オーディオデータ)としてUSBフラッシュメモリーに保存したりできます。

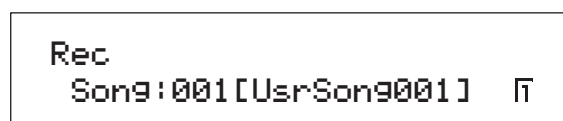
ユーザーソングを録音する

- 1 [REC]ボタンを押します。
レコード画面が表示されます。



- 2 [◀PAGE]ボタンまたはナンバー[1]ボタンを押してレコード画面の1ページ目を表示し、ノブ1を回して、ユーザーソング(Song)を選択します。

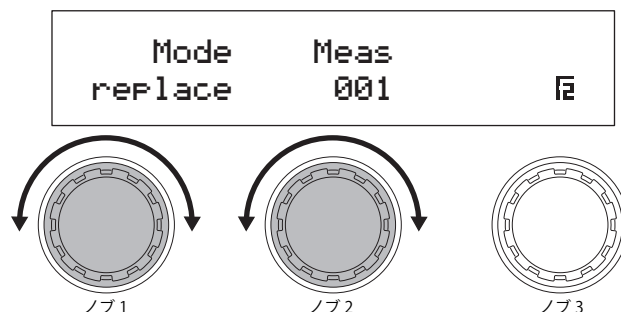
保存先となるソングナンバーが自動的に設定されます。バックソングにユーザーソング([SONG SETTING]→ナンバー[1]ボタン→「Type」=「UsrSong」)が設定されている場合は、そのバックソングとして設定されているソングナンバーが保存先に設定されます。バックソングにプリセットドラム(PreDrum)またはWaveファイル(Wave)が設定されている場合は、空のソングナンバーが保存先に設定されます。



NOTE 空のユーザーソングがない場合は、エラーメッセージが表示されます。この場合、不要なユーザーソングを削除して空のユーザーソングを用意するか、不要なユーザーソングをバックソングに設定したうえで上書き録音してください。

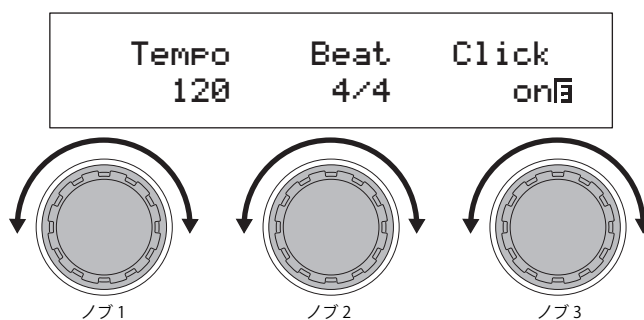
- 3 [PAGE▶]ボタンまたはナンバー[2]ボタンを押してレコード画面の2ページ目を表示し、ノブ1/2を回して、録音方法や録音を始める位置を設定します。

NOTE 「Mode」を「replace」に設定すると上書き録音され、「overdub」に設定すると重ねて録音されます。



演奏を録音する

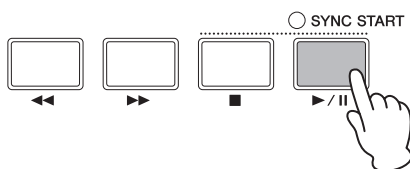
- 4 [PAGE▶]ボタンまたはナンバー[3]/[4]ボタンを押してレコード画面の3/4ページ目を表示し、ノブ1/2/3を回して、録音のテンポやビート、クリック音の設定をします。



NOTE 各パラメーターについて詳しくは、リファレンスマニュアル(別PDFファイル)をご参照ください。

- 5 [▶/||] (プレイ/ポーズ) ボタンを押します。
録音が始まります。

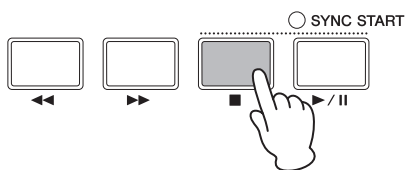
NOTE バッキングソングにプリセットドラムまたはWaveファイルが設定されている場合は、録音時は再生されません。



- 6 [■] (ストップ) ボタンを押します。
録音が終了し、パフォーマンスのトップ画面が表示されます。録音したユーザーソングは、選択中のバッキングソングとして設定されます。

注記

画面に「Please keep power on…」と表示されているときは、電源を切らないでください。「Please keep power on」が表示されているときに電源を切ると、ユーザーメモリー上のデータが失われたりシステムデータが壊れたりして、次に電源を入れたときに正常に起動しなくなるおそれがあります。



- 7 録音したデータを聞きたい場合は、[▶/||] (プレイ/ポーズ) ボタンを押します。
録音したデータが再生されます。再生を停止する場合は、[■] (ストップ) ボタンを押します。

HINT

すでに録音されたデータが存在するユーザーソングに対して録音をした場合は、録音前の状態に戻すことができます。ここでは、その手順を説明します。

1. [REC] ボタンを押してレコード画面に入り、ナンバー[4]ボタンを押して4ページ目を表示させます。
2. ノブ3(Undo[PUSH])を押します。
実行を確認する画面が表示されます。
3. ノブ1(YES[PUSH])を押します。
最後に録音したデータが削除され、録音前の状態に戻ります。

Wave ファイルを録音する

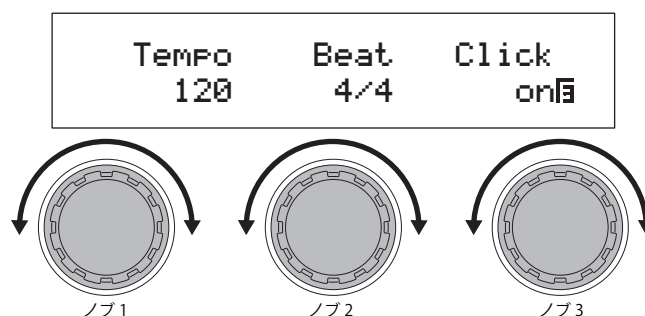
- 1 あらかじめ本体のUSB TO DEVICE端子にUSBフラッシュメモリーを接続します。
- 2 [REC]ボタンを押します。
レコード画面が表示されます。
- 3 [◀PAGE]ボタンまたはナンバー[1]ボタンを押してレコード画面の1ページ目を表示し、ノブ1を回して、Waveファイル(Wave)を選択します。
Waveファイル名が自動的に設定されます。



- 4 必要に応じてノブ3を押して、名前を変更します。変更が完了したら[ENTER]ボタンを押してレコード画面の1ページ目に戻ります。
名前の変更方法については、「基本操作」(20ページ)をご参照ください。

NOTE 本体で録音するWaveファイルの名前には、必ず7~8文字目に}{という記号がつき、録音前には編集できません。録音後は編集できますが、この2文字については消さないでください。本体で作成したWaveファイルは再生音量が鍵盤音に比べ非常に小さくなるので、}{を7~8文字目につけることにより音量を上げ、鍵盤音とのバランスをとります。

- 5 [PAGE▶]ボタンまたはナンバー[3]/[4]ボタンを押してレコード画面の3/4ページ目を表示し、ノブ1/2/3を回して、録音のテンポやビート、クリック音の設定をします。



NOTE 各パラメーターについて詳しくは、リファレンスマニュアル(別PDFファイル)をご参照ください。

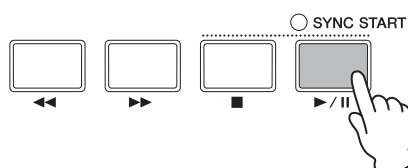
- 6 [▶/||](プレイ/ポーズ)ボタンを押します。
録音が始まります。同時に現在設定されているバックアップソングも再生され、オーディオデータと一緒に録音されます。

注記

録音中にUSBフラッシュメモリーを抜かないでください。USBフラッシュメモリーが壊れるおそれがあります。

NOTE バックアップソングにWaveファイルが設定されている場合は、録音時にバックアップソングは再生されません。

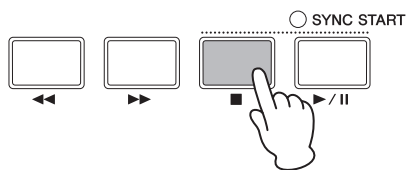
NOTE 録音時にバックアップソングを再生させたくない場合は、[TRACK]ボタンを押して、オフ(ランプ消灯)に設定します。



演奏を録音する

7 [■](ストップ)ボタンを押します。

録音が終了し、パフォーマンスのトップ画面が表示されます。録音したWaveファイルは、本体に接続しているUSBフラッシュメモリーに保存され、選択中のバックアップソングとして設定されます。



8 録音したデータを聞きたい場合は、[▶/||](プレイ/ポーズ)ボタンを押します。

録音したデータが再生されます。再生を停止する場合は、[■](ストップ)ボタンを押します。

HINT

キーオンスタートによって録音を開始させる場合

CP5/CP50では、鍵盤を押して録音を開始させるキーオンスタート機能があります。この機能を利用するには、以下の手順を行ないます。

1. [SONG SETTING] ボタンを押し、さらにナンバー[3] ボタンを押します。
ソング設定画面の3ページ目が表示されます。
2. ノブ1を回して、「StartKey(キーオンスタート)」を設定します。
「all」は、どの鍵盤を押しても録音が始まる設定です。
3. [REC] ボタンを押してレコード画面に入り、録音に必要な設定を行ないます(41、43 ページ)。
4. [■](ストップ) ボタンを押しながら、[▶/||](プレイ/ポーズ) ボタンを押します。
録音のスタンバイ状態になります。
5. 手順2で「StartKey」に設定したキーを押します。
録音が始まります。録音を停止する場合は、[■](ストップ) ボタンを押します。

MIDI機器と接続して使用する

市販のMIDIケーブルを使ってCP5/CP50のMIDI [IN] / [OUT] / [THRU] 端子と外部MIDI機器のMIDI端子を接続します。ここでは、CP5/CP50から外部MIDI機器をコントロールする場合について説明します。

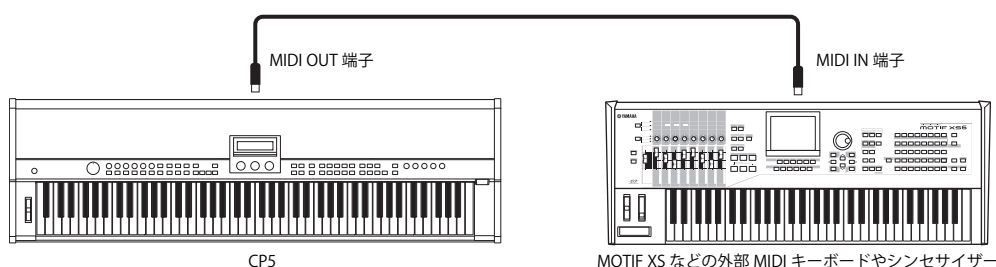
NOTE CP5/CP50と外部機器を接続した場合も、音を出すためには、外部ステレオシステムやアンプ、スピーカーなどとの接続が必要となります。ヘッドフォンをお使いになれば直接音を聞くこともできます。詳しくは、演奏前の準備の「外部オーディオ機器と接続する」(15 ページ)をご参照ください。

注記

外部機器と接続するときは、すべての機器の電源を切った状態で行なってください。また、すべての機器のボリュームが0になっていることを確認して、MIDI送信側の機器→MIDI受信側の機器→外部オーディオ機器(ミキサー→アンプ)の順で電源を入れてください。また、電源を切る場合は外部オーディオ機器のボリュームを下げ、逆の順番で切ってください。

CP5/CP50で外部シンセサイザーをコントロールする

本体の鍵盤演奏で、ほかのMIDI音源(シンセサイザー、音源モジュールなど)の音を鳴らすことができます。



この接続では、CP5/CP50のMIDI送信チャンネルと、外部音源のMIDI受信チャンネルを一致させる必要があります。CP5/CP50では、本体の音源と外部音源を同時に鳴らすだけでなく、本体の音と外部音源の音を鳴らしわけることもできます。ここでは、本体の音と外部音源の音を鳴らしわける場合の設定について説明します。鳴らしわける必要がない場合は、以下の手順1~2を設定したあと、ユーティリティー設定画面の5ページ目(リファレンスマニュアル参照)で送信チャンネルを設定し、外部MIDI機器の受信チャンネルを同じチャンネルに設定します。

- 1 [UTILITY] ボタンを押し、ナンバー[6] ボタンを押してユーティリティー設定画面の6ページ目(リファレンスマニュアル参照)を表示させます。
- 2 ノブ2を回して、「In/Out (MIDI In/Out)」を「MIDI」に設定します。
MIDIメッセージの入出力口がMIDI端子に設定されます。
- 3 [STORE] ボタンを押し、設定を本体に保存します。
本体のシステム設定として保存できます。保存方法の詳細については、50 ページをご参照ください。
- 4 [EXIT] ボタンを押し、パフォーマンスのトップ画面に戻り、演奏したいパフォーマンスを選択します(23 ページ)。
- 5 [COMMON] ボタンを押し、ナンバー[2] ボタンを押してコモン設定画面の2ページ目を表示させます。
- 6 ノブ3 (ZoneEdit [PUSH]) を押します。
ゾーンエディット画面に入ります。
- 7 ノブ3を回して、「ZoneSw」を「on」に設定します。
4つのゾーンが有効になります。
- 8 ナンバー[2] ボタンを押して2ページ目を表示し、ノブ1を回して、設定するゾーンを選択します。
- 9 [◀PAGE]/[PAGE▶] ボタンを押してページを切り替えながら、設定したいパラメーターに該当するノブを回します。
2ページ目の「Target」で内部音源を鳴らすか外部音源を鳴らすかを設定し、「TransCh」で送信チャンネルを設定します。

NOTE 各パラメーターについて詳しくは、リファレンスマニュアル(別PDFファイル)をご参照ください。

- 10 必要に応じて、手順8に戻り、すべてのゾーンの設定を行ないます。
設定が完了したら、[EXIT]ボタンを押して、パフォーマンスのトップ画面に戻ります。
- 11 外部MIDI機器のMIDI受信チャンネルを、手順9で設定した、外部音源を鳴らすゾーンの送信チャンネルに合わせます。

HINT

MIDI [THRU]端子は、MIDI [IN]端子からはいってきた信号をそのまま外部に出力するための端子です。外部コントローラーからCP5/CP50の音源を鳴らすだけでなく、MIDI THRU端子を通じて別のMIDI音源を鳴らすこともできます。

コンピューターと接続して使用する

本体とコンピューターを接続することで、MIDIデータの送受信ができます。コンピューター上でシーケンサーを再生させて本体音源を鳴らしたり、CP5/CP50からコンピューターへMIDIデータを送信したりできます。

USBケーブルを使って接続する

本体のUSB TO HOST端子とコンピューターのUSB端子を、USBケーブルで接続する方法について説明します。送受信できるデータは、MIDIデータのみです。

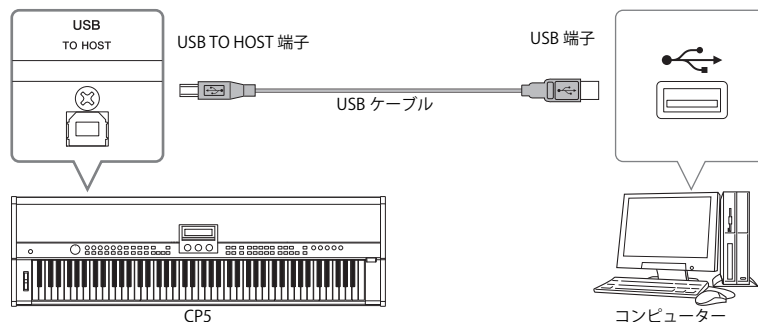
NOTE 音を出すためには、本体に外部ステレオシステムやアンプ、スピーカーなどを接続する必要があります。ヘッドフォンをお使いになれば直接音を聞くこともできます。詳しくは、演奏前の準備の「外部オーディオ機器と接続する」(15ページ)をご参照ください。

- 1 以下のURLから、最新のUSB-MIDIドライバーをダウンロードします。
ダウンロードボタンを押したあと、ファイルの実行および解凍をします。
http://www.yamaha.co.jp/download/usb_midi/

NOTE 動作環境については、上記URLをご参照ください。

NOTE USB-MIDIドライバーは、改良のため予告なしにバージョンアップすることがあります。詳細および最新情報については、上記URLをご確認ください。

- 2 USB-MIDIドライバーをコンピューターにインストールします。
ダウンロードしたファイルに付属されているインストールガイドをご参照ください。
手順の中の、PA機器/電子楽器のUSB TO HOST端子をUSBケーブルで接続する箇所については、下図を参考にしてください。



- 3 本体をUSB TO HOST端子を通してMIDIを送受信する状態に切り替えます。
[UTILITY]ボタンを押し、ナンバー[6]ボタンを押してユーティリティ設定画面の6ページ目(リファレンスマニュアル参照)を表示させます。ノブ2を回して「In/Out (MIDI In/Out)」を「USB」に設定します。

NOTE 本体とコンピューターをMIDIケーブルを使って接続する場合は、「In/Out」を「MIDI」に設定します。

- 4** [STORE] ボタンを押して、設定を本体に保存します。
 本体のシステム設定として保存されます。保存方法の詳細については、50 ページをご参照ください。

USB TO HOST 端子ご使用時の注意

USB TO HOST 端子でコンピューターと接続するときは、以下のことを行なってください。以下のことを行なわないと、コンピューターや本体が停止 (ハングアップ) して、データが壊れたり、失われたりするおそれがあります。

コンピューターや本体が停止したときは、アプリケーションやコンピューターを再起動したり、本体の電源を入れなおしてください。

- USB ケーブルは、AB タイプのものをご使用ください。
- USB TO HOST 端子でコンピューターと接続する前に、コンピューターの省電力 (サスペンド/スリープ/スタンバイ/休止) モードを解除してください。
- 本体の電源を入れる前に、USB TO HOST 端子とコンピューターを接続してください。
- 本体の電源オン/オフやUSBケーブルの抜き差しをする前に、以下のことを行なってください。
 - すべてのアプリケーションを終了させてください。
 - 本体からデータが送信されていないか確認してください。(鍵盤を演奏すると、本体からデータが送信されます。)
- 本体の電源オン/オフやUSBケーブルの抜き差しは、6秒以上間隔を空けて行ってください。

HINT

コンピューターからMIDIでパフォーマンスを選ぶ

コンピューター上のアプリケーションソフトウェアから、MIDIメッセージで本体のパフォーマンスを選択できます。この場合は、MIDIメッセージとして下記3つを本体に送信する必要があります。

- バンクセレクト MSB
- バンクセレクト LSB
- プログラムチェンジ

本体パフォーマンスに割り当てられている、バンクセレクト MSB、バンクセレクト LSB、プログラムチェンジは、データリスト (別PDFファイル) の「MIDI Data Table」をご参照ください。

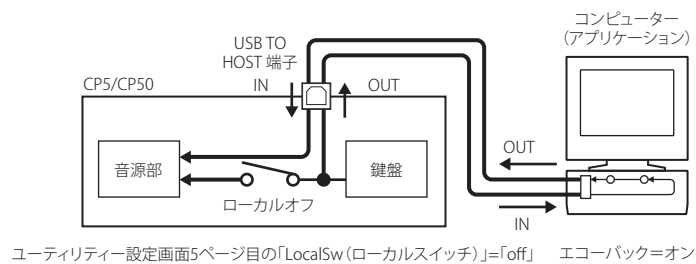
コンピューターと接続しているときのローカルオン/オフの設定

本体をコンピューターと接続して使用する場合、通常は、鍵盤で演奏したデータをコンピューターに送信し、その情報をコンピューターから返してもらって音源部を鳴らします。このときに本体のローカルコントロールの設定(ユーティリティー設定画面の5ページ目の「LocalSw」)がオンになっていると直接音源部にも情報を送信してしまうので、音が重なって発音してしまいます。

コンピューター上のアプリケーションにもよりますが、一般的には以下のように設定すると音が重なって鳴らず、適切なサウンドが得られます。

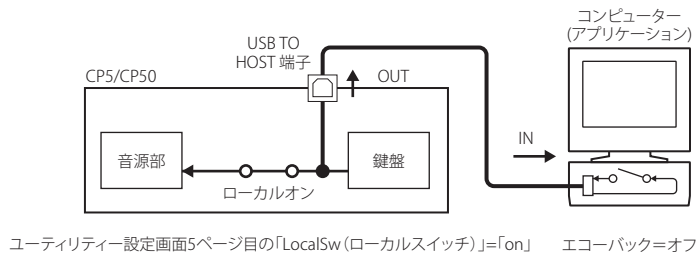
■アプリケーションの設定でエコーバック(MIDIスルー)=オンのとき

本体のローカルコントロールをオフに設定します。



■アプリケーションの設定でエコーバック(MIDIスルー)=オフのとき

本体のローカルコントロールをオンに設定します。



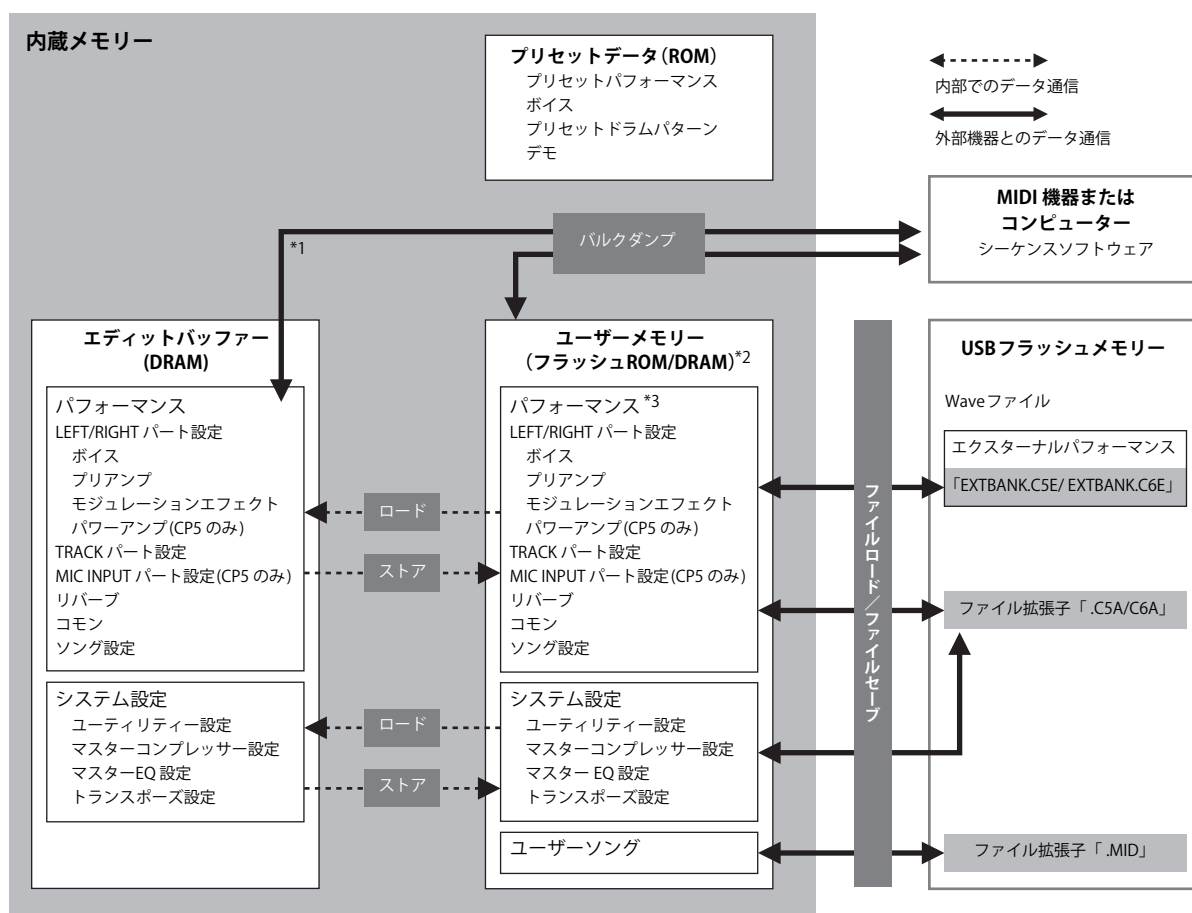
*エコーバックとは、MIDI INから受信したMIDIデータを、MIDI OUTにスルーアウトする機能です。コンピューター用のアプリケーションでは、MIDIスルーとも言います。

NOTE エコーバックについては、それぞれのアプリケーションに付属の取扱説明書をご参照ください。

設定を保存する

メモリー構成

CP5/CP50の内部メモリーおよび外部機器との関係は下図のとおりです。



*1: エディットバッファのバルクダンブは、現在エディット中のデータだけが対象となります。

*2: ユーザーパフォーマンスメモリーはフラッシュROMにあり、エクスターナルパフォーマンスメモリーはDRAMにロードされます。

*3: ユーザーパフォーマンスとエクスターナルパフォーマンスの両方の場合を1つにまとめて表しています。

フラッシュROM

ROM (ロム=Read Only Memoryの略) とは、読み出し専用のメモリーのことで、従来はデータを書き換えることはできませんでした。それに対してフラッシュROMは、従来のROMと違ってデータの消去/書き込みができるROMです。フラッシュROM上のデータは、電源を切っても消えません。

DRAM

RAM (ラム=Random Access Memoryの略) は、読みだし/書き込みの両方が可能なメモリーのことです。RAMには、記憶を保持できる条件によりSRAM (Static RAM) とDRAM (Dynamic RAM) の2種類があります。本体に搭載されているのは、DRAMのみです。DRAM上のデータは電源を切ると消えてしまいますので、電源を切る前に、フラッシュROMへの保存が必要です。

設定を保存する

エディットバッファとユーザーメモリー

エディットバッファとは、1つのパフォーマンスデータやシステム設定を編集(エディット)するための作業用メモリーエリアです。このエリアで作業して作ったデータを、ユーザーメモリーに保存(ストア)することになります。

別のパフォーマンスを選択すると、エディットバッファの内容は、選択後のパフォーマンスに書き換えられます。保存が必要な場合は、変更前にユーザーメモリーにストアする必要があります。

設定を保存する

作成したオリジナルのパフォーマンスは、本体のユーザーパフォーマンスメモリーまたはエクスターナルパフォーマンスメモリーに保存できます。また、マスターコンプレッサーおよびトランスポーズの設定、ユーティリティーの設定は、システム設定として本体のユーザーメモリーに保存できます。さらに、編集中のパフォーマンスデータを外部MIDI機器やDAWソフトウェアにバルクデータとして保存できます。

NOTE パフォーマンスネームを変更する場合は、コモンパラメーターで設定します。詳しくは、リファレンスマニュアル(別PDFファイル)をご参照ください。

注記

ストアを実行すると、ストア先のデータは失われてしまいます。大切なデータは、あらかじめUSBフラッシュメモリーなどに保存(セーブ)しておくことをおすすめします。

■パフォーマンスを保存する

NOTE USBフラッシュメモリー(エクスターナルメモリー)に保存したい場合は、あらかじめUSBフラッシュメモリーを本体に接続しておきます。

- 1 パフォーマンスの編集が終わったら、[STORE] ボタンを押します。
ストア画面が表示されます。

```
STORE      [CP Perf1 ]
           [USR1:A02][CP Perf2 ]
```

- 2 ノブ1とノブ2を回してストア先のバンクとパフォーマンスナンバーを選択します。
エクスターナルメモリーをストア先に選択する場合は、USBフラッシュメモリーが本体に接続されていることを確認します。

NOTE 本体パネル上のバンクボタン/グループボタン/ナンバーボタンを押して保存先を選択することもできます。

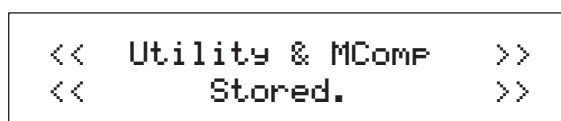
- 3 [ENTER] ボタンを押します。
実行の確認画面が表示されます。
- 4 [ENTER] ボタンまたはノブ1 (YES [PUSH]) を押して、ストアを実行します。
画面に「Completed.」が表示されるとストアが終了し、ストア先のパフォーマンスのトップ画面が表示されます。
ストアを中止したい場合は、実行の確認画面でノブ3 (NO [PUSH]) または [EXIT] ボタンを押します。

注記

画面に「Please keep power on…」と表示されているときは、電源を切らないでください。「Please keep power on」が表示されているときに電源を切ると、ユーザーメモリー上のデータが失われたりシステムデータが壊れたりして、次に電源を入れたときに正常に起動しなくなるおそれがあります。

■マスターコンプレッサー/トランスポーズ/ユーティリティの設定を保存する

- 1 マスターコンプレッサー/トランスポーズ/ユーティリティの設定画面上で、[STORE] ボタンを押します。ストアが実行され、システム設定として保存されます。



注記

画面に「Please keep power on…」と表示されているときは、電源を切らないでください。「Please keep power on」が表示されているときに電源を切ると、ユーザーメモリー上のデータが失われたりシステムデータが壊れたりして、次に電源を入れたときに正常に起動しなくなるおそれがあります。

■選択中のパフォーマンスを外部機器に保存する(バルクダンプ)

現在編集中のパフォーマンスデータ(エディットバッファー上のデータ)を、バルクダンプ機能を使って本体に接続されている外部MIDI機器やDAWソフトウェアなどにMIDIデータとして記録することにより、保存できます。ここでは、DAWソフトウェアに保存する場合について、説明します。

NOTE コンピューターとCP5/CP50との接続については、46 ページをご参照ください。

NOTE バルクダンプを行なうためには、ユーティリティ設定画面の6ページ目にある「DevNo.(デバイスナンバー)」が正しく設定されている必要があります。詳細は、リファレンスマニュアル(別PDF ファイル)をご参照ください。

データを保存する

- 1 [UTILITY] ボタンを押し、グループ[C] ボタンを押してユーティリティ設定画面の13(C) ページ目(リファレンスマニュアル参照)を表示させます。
- 2 DAWソフトウェアのMIDIトラックを選択し、リアルタイムレコーディングを開始します。
- 3 CP5/CP50のユーティリティ設定画面の13(C) ページ目でノブ1(BulkDmp [PUSH]) を押し、続けてノブ1(「YES [PUSH]」) ボタンを押します。
CP5/CP50からDAWソフトウェアに現在編集中のパフォーマンスがバルクデータとして送信されDAWソフトウェアのMIDIトラックに記録されます。
- 4 DAWソフトウェア上で、バルクデータが録音されたプロジェクトファイルを保存します。

データを復元する

- 1 DAWソフトウェア上で、復元したいバルクデータが含まれているプロジェクトファイルを開きます。
- 2 DAWソフトウェア上で、バルクデータを含んだプロジェクトファイルを再生します。

注記

バルクを受信すると、本体の編集中のパフォーマンスデータは、バルクデータに合わせて上書きされます。大切なデータは上書きしないようにご注意ください。

USBフラッシュメモリーとファイルをやりとりする

CP5/CP50では、本体のユーザーメモリーの全データをUSBフラッシュメモリーに保存したり、USBフラッシュメモリーからデータを読み込んだりできます。また、USBフラッシュメモリー上のディレクトリーの作成や、ファイルのリネームや削除などもできます。これらの操作は、ファイル設定画面(リファレンスマニュアル参照)で行ないます。ファイル設定画面での基本操作は次のとおりです。

- 1 USBフラッシュメモリーを本体のUSB TO DEVICE端子に接続します。
- 2 [FILE]ボタンを押します。
ファイル設定画面が表示されます。
- 3 [◀PAGE]/[PAGE▶]ボタンを押して、実行したいファイル操作に該当するノブを押します。
選択したファイル操作を実行する画面に入ります。
- 4 ノブ1/2/3や[ENTER]ボタンを使って、各パラメーターを設定します。
各ファイル操作について詳しくは、リファレンスマニュアル(別PDFファイル)をご参照ください。
- 5 ファイル設定画面での操作が終わったら、[EXIT]ボタンを押します。
パフォーマンスのトップ画面に戻ります。

HINT

電源を入れたときに自動的にファイルをロードする(オートロード)

データ制作を続けていく場合、バックアップファイルを1つ決めておき、本体の電源を入れるたびにそのファイルがロードされれば、すぐにデータ制作を再開でき、便利です。これを実現するためには、以下に手順を行なってください。

1. オートロードさせたいファイルに以下の名前を付け、USBフラッシュメモリーのルートディレクトリーにセーブ(保存)します。

ファイルタイプ		ファイル名
All(オール)	CP5	AUTOLOAD.C5A
	CP50	AUTOLOAD.C6A

2. [UTILITY]ボタンを押し、さらにグループ[A]ボタンを押して、ユーティリティー画面の11(B)ページ目を表示させます。
3. ノブ2を回して「AutoLoad」を「on」に設定し、[STORE]ボタンを押して設定を保存します。
4. 電源を再起動します。
手順1でUSBフラッシュメモリーに保存したAllファイルが、本体のメモリーに自動的にロードされます。

工場出荷時の状態に戻す(ファクトリーセット)

ユーザーメモリー上のデータを初期化して工場出荷時の状態に戻すファクトリーセットを実行します。

注記

ファクトリーセットを実行すると、現在のユーザーメモリーのパフォーマンスデータや、システム設定の内容がすべて工場出荷時の設定に書き換えられます。大切なデータを失わないようにご注意ください。また、必要な設定内容は、前もってUSBフラッシュメモリーやコンピューターなどに保存されることをおすすめします。

- 1 [UTILITY]ボタンを押し、グループ[C]ボタンを押してユーティリティー設定画面の13(C)ページ目を表示させます。
- 2 ノブ2(FactSet [PUSH])を押します。
実行の確認画面が表示されます。
- 3 ノブ1(YES [PUSH])ボタンまたは[ENTER]ボタンを押して、ファクトリーセットを実行します。
画面に「Completed.」が表示されるとファクトリーセットが終了し、ユーティリティー設定画面に戻ります。
ファクトリーセットを中止したい場合は、実行の確認画面でノブ2(NO [PUSH])または[EXIT]ボタンを押します。

注記

画面に「Please keep power on…」と表示されているときは、電源を切らないでください。「Please keep power on」が表示されているときに電源を切ると、ユーザーメモリー上のデータが失われたりシステムデータが壊れたりして、次に電源を入れたときに正常に起動しなくなるおそれがあります。

資料

困ったときは

「音が鳴らない」「音が歪む」などといった場合は、まず以下の項目をチェックしてください。また、外部機器にデータのバックアップをしてから(51 ページ)、ファクトリーセット(52 ページ)をすることで解決できることもあります。それでも直らないときは、お買い上げのお店、または巻末のシンセサイザー・デジタル楽器ご相談窓口、ヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

音が鳴らない

■ 本体に外部アンプやスピーカー、ヘッドフォンが接続されていますか？

本体にはスピーカーが内蔵されていません。音を出すためには、外部アンプやスピーカー、ヘッドフォンなどを接続してください(15 ページ)。

■ 本体と、本体に接続した外部オーディオ機器の電源は、オンになっていますか？

■ 本体と、本体に接続した外部オーディオ機器のマスターボリュームは、十分に上がっていますか？

FOOT CONTROLLER端子にフットコントローラーを接続している場合は、動かしてみてください。

■ 外部MIDIコントローラーによって、MIDIボリュームやエクスプレッションが下がってはいませんか？

■ 本体と、外部オーディオシステム(アンプやスピーカーなど)との接続は正しく行なわれていますか？

■ ローカルコントロールがオフになっていませんか？

本体をコンピューターと接続して使用しない場合、ローカルコントロールがオフになっていると、鍵盤を弾いても内部音源は鳴りませんので、ご注意ください。

[UTILITY] ボタンを押す → ナンバー[5] ボタンを押して5ページ目を表示 → ノブ3を回して「LocalSw」=「on」に設定 → [STORE] ボタンを押して設定を保存(48 ページ)

■ パートボリュームは十分に上がっていますか？

■ パートボタンはオンになっていますか？

パートボタンがオフ(ランプが消灯)になっている場合は、該当パートの音が鳴らなくなります。パートボタンを押してオン(ランプが点灯)にしてください。

■ プリアンプおよびパワーアンプ/コンプレッサー(CP5のみ)の出力音量が最小になっていませんか？

プリアンプの場合(E.PIANO カテゴリーのボイスのみ)

[PRE-AMP] ボタンを長押しする(1秒以上押ししたままにする) → ナンバー[4] ボタンを押して4ページ目を表示 → ノブ2を回して「Volume」を設定(リファレンスマニュアル参照)

パワーアンプ/コンプレッサーの場合(CP5のみ)

[PWR-AMP] ボタンを長押しする(1秒以上押ししたままにする) → 音量を調整するパラメーター設定(リファレンスマニュアル参照)

音が歪む

■ ボリュームを上げすぎていませんか？

本体に接続したミキサーやアンプの入力レベルを確認してください。入力ゲインを下げたり、PADをオンにしても歪む場合は、本機のマスターボリュームを下げてください。

■ プリアンプ、モジュレーションエフェクト、パワーアンプ/コンプレッサー (CP5のみ) の設定は適切ですか？

設定によっては、音が歪む場合があります。

[PRE-AMP]/[MOD-FX]/[PWR-AMP] (CP5のみ) ボタンを長押しする (1秒以上押ししたままにする) (リファレンスマニュアル参照)

音が途切れる

■ 全体の発音数が多すぎると、音が途切れる場合があります。

ピッチがずれている

■ トランスポーズまたはチューンの設定が、0以外の値になっていませんか？

[TRANPOSE] ボタンを押す→ノブ1を回して「Transpose」を設定

[UTILITY] ボタンを押す→ナンバー[1] ボタンを押して1ページ目を表示→ノブ1を回して「MasterTune」を設定

■ LEFT/RIGHTパートのノートシフト、デチューンが0以外に設定されていませんか？

LEFT/RIGHTパートのパートボタンを長押しする (1秒以上押ししたままにする)→ナンバー[2] ボタンを押して2ページ目を表示→ノブ1/2を回して「NoteSht」/「Detune」を設定

プリアンプ、モジュレーションエフェクト、パワーアンプ/コンプレッサー (CP5のみ)、リバーブがかからない

■ [PRE-AMP] ボタン、[MOD-FX] ボタン、[PWR-AMP] ボタン (CP5のみ)、[REVERB] ボタンはオンになっていますか？

これらのボタンがオフ (ランプが消灯) になっている場合は、各ブロックがオフになります。各ブロックを有効にした場合は、各ボタンを押してオン (ランプが点灯) にしてください。

■ プリアンプがかからない場合、設定されているボイスはPIANO/E.PIANOカテゴリーのボイス以外が設定されていませんか？

PIANO/E.PIANO以外のボイスの場合、プリアンプブロックは無効になります。

■ モジュレーションエフェクトがかからない場合、パラメーターの設定は適切ですか？

[MOD-FX] ボタンを長押しする (1秒以上押ししたままにする) (リファレンスマニュアル参照)

エディットしていないのにエディットマーク(目)が表示される

- ノブを操作したり、外部MIDI入力によりCP5/CP50の音源を鳴らした場合に、パラメーター設定が変更されエディットマークが表示されることがあります。

[▶/III] (プレイ/ポーズ) ボタンを押してもバックキングソングが再生されない

- 設定されているバックキングソングがユーザーソングの場合、データは入っていますか？
- [TRACK] ボタンはオン(ランプ点灯)になっていますか？
- MIDIシンクはインターナル/オートに設定されていますか？

[UTILITY] ボタンを押す→ナンバー[6] ボタンを押して6ページ目を表示→ノブ3を回して「MIDISyn」=「int」/「auto」に設定

ユーザーソングまたはWaveファイルを録音できない

- 録音先となるユーザーソング用のメモリーまたはUSBフラッシュメモリーの容量が残り少なくなっていますか？
(ユーザーソングの場合)

[SONG SETTING] ボタンを押す→ナンバー[4] ボタンを押して4ページ目を表示→「MemInfo」

(Waveファイルの場合)

[FILE] ボタンを押す→ナンバー[2] ボタンを押して2ページ目を表示→「MemInfo」

- 空のユーザーソングがなくなっていますか？ (41 ページ)
バックキングソングにプリセットドラムパターンまたはWaveファイルを設定している場合、ユーザーソングの録音先には空のユーザーソングのみが設定されます。空のユーザーソングがない場合は、不要なユーザーソングを削除するか、不要なユーザーソングをバックキングソングに設定したうえで上書き録音してください。

マイクを接続して音声を入力しても、アウトプットから適切に出力されない

- [GAIN] ノブが最小になっていませんか？
- [MIC INPUT] ボタンがオフ(ランプ消灯)になっていませんか？

接続したコンピューターと本体との通信がうまくできない

- コンピューター側でのポート設定はできていますか？
- MIDI メッセージの入出力口の設定で、実際に使用している端子を設定していますか？ (45 ページ)

[UTILITY] ボタンを押す→ナンバー[6] ボタンを押して6ページ目を表示→ノブ2を回して「In/Out」を設定→[STORE] ボタンを押して設定を保存

本体と接続したコンピューター/MIDI機器のシーケンスデータを再生させても、本体の音が適切に鳴らない

- コンピューター側の送信チャンネルが本体の受信チャンネルと一致していますか？

[UTILITY] ボタンを押す→ナンバー[5] ボタンを押して5 ページ目を表示→「RcvCh」

バルクデータがうまく送信/受信できない

- うまく送信できない場合、デバイスナンバーの設定値が、接続しているMIDI機器のデバイスナンバーと一致していますか？

[UTILITY] ボタンを押す→ナンバー[6] ボタンを押して6 ページ目を表示→「DevNo.」

- 本体のバルクダンプ機能を使って記録したデータを受信するときは、送信時と同じデバイスナンバーに設定する必要があります。

[UTILITY] ボタンを押す→ナンバー[6] ボタンを押して6ページ目を表示→ノブ1を回して「DevNo.」を設定→[STORE] ボタンを押して設定を保存(51 ページ)

USBフラッシュメモリーにセーブできない

- USBフラッシュメモリーにライトプロテクトがかかっていますか？

- USBフラッシュメモリーは正しくフォーマットされていますか？

[FILE] ボタンを押す→ナンバー[2] ボタンを押して2ページ目を表示→ノブ2を押してフォーマットを実行(リファレンスマニュアル参照)

- USBフラッシュメモリーは本体と動作確認済みのものを使用されていますか？(25 ページ)

- USBハブを介してUSBフラッシュメモリーを接続していませんか？

USBハブは動作保証していません(25 ページ)。

メッセージリスト

メッセージ	説明
Are You Sure? [YES]/[NO]	各操作を実行したときの、確認を求める表示です。
Auto volume boost with this file name!	Wave ファイルの名前の 7～8 文字目に }{ という記号を追加して名前を確定すると表示されます。この名前のファイルを CP5/CP50 で再生した場合、音量が自動的に加算されて大音量になる可能性があります。
Completed.	処理が完了したときに表示されます。
Connected USB device is not supported.	使用不可能な USB フラッシュメモリーが本体に接続されています。
Connecting to USB device...	USB フラッシュメモリーを接続中です。
Device number is off.	デバイスナンバーがオフなので、バルクデータを送受信できません。
Device number mismatch.	デバイスナンバーが異なるので、バルクデータを送受信できません。
Error storing user memory.	本体のユーザーメモリーへの保存(ストア)に失敗しました。ユーザーメモリーが故障した可能性があるので、巻末のヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。
Executing...	実行中です。表示中は絶対に電源を切らないでください。
File already exists.	同じ名前のファイルがすでに存在しています。
File is not found.	選択したタイプのファイルがありません。
Illegal file name.	ファイルネームが無効の場合に表示されます。
Illegal file.	ロードのとき、目的のファイルが本機では扱えない、または現在のモードではロードできない場合に表示されます。
Illegal format.	WAV ファイルの再生や MIDI ファイルのロード時に、Format1 を選択すると表示されます。
Load?(EXT perf) [YES]/[NO]	USB フラッシュメモリー上のエクスターナルパフォーマンスメモリーのファイル (EXTBANK.C5E/EXTBANK.C6E) を本体のメモリーに上書きしてもいいかを確認しています。EXTBANK.C5E/EXTBANK.C6E がすでに本体に読み込まれている場合に、EXTBANK.C5E/EXTBANK.C6E をルートディレクトリーに記録している USB フラッシュメモリーを本体に接続すると、表示されます。
Loading... [EXIT] to cancel.	ファイルロード中に表示されます。
Making external memory...	エクスターナルパフォーマンスメモリーを、本体に接続した USB フラッシュメモリー上に作っています。
MIDI buffer full.	一度に大量の MIDI データを受信したので処理できませんでした。
MIDI checksum err.	受信したシステムエクスクルーシブのチェックサムが違います。
MIDI data error.	MIDI データを受信中にエラーが生じました。
No more files can be created.	これ以上ファイルを作成できません。
Overwrite? [YES]/[NO]	ファイルをセーブする際に、USB フラッシュメモリー内に同名のファイルがある場合に表示されます。
Please keep power on...	フラッシュROM へのデータの書き込み中です。表示中は絶対に電源を切らないでください。表示中に電源を切ると、ユーザーメモリーのデータが失われたり、システムが壊れて次に電源を入れたときに正常に立ち上がらなくなるおそれがあります。
Please select a left or right part.	LEFT/RIGHT パート以外のパートを選択しているときに、[VOICE]/[PRE-AMP]/[MOD-FX]/[PWR-AMP] ボタンを押すと表示されます。LEFT/RIGHT パート以外のパートでは、[VOICE]/[PRE-AMP]/[MOD-FX]/[PWR-AMP] ボタンは機能しません。
Please select a piano voice.	PIANO/E.PIANO カテゴリー以外のボイスを選択しているときに、[PRE-AMP] ボタンを押すと表示されます。PIANO/E.PIANO カテゴリー以外のボイスには [PRE-AMP] ボタンは機能しません。
Please stop sequencer.	シーケンサーを停止してから操作してください。

メッセージリスト

メッセージ	説明
Read only file.	属性が読み込み専用設定されているファイルに、デリート、リネーム、上書きセーブをしようとした場合に表示されます。
Receiving MIDI bulk...	MIDIバルクデータを受信中です。
Recording...	ユーザーソング、WAVファイルの録音中に表示されます。
Recording stopped.	シーケンサーのメモリー容量を超えたので、録音を停止しました。
Saving... [EXIT] to cancel.	ファイルセーブ中に表示されます。
Scanning autoloading files.	オートロードするファイルの検索中に表示されます。
Seq data is empty.	SMFデータをセーブする場合、ユーザーソングがすべて空でセーブできるデータがないときに表示されます。
Seq data is not empty.	ユーザーソングの録音時に、録音先となる空のソングナンバーがないときに表示されます。
Seq memory full.	シーケンサー用の内部メモリーがいっぱいで、録音やMIDIの受信、USBフラッシュメモリーからのデータのロードができないときに表示されます。不要なユーザーソングを消去してから、操作をやりなおしてください。
Transmitting MIDI bulk...	MIDIバルクデータを送信中です。
USB communication failed.	USBフラッシュメモリーとの通信中にエラーが発生しました。
USB connection terminated.	USB機器に異常な電流が流れたので接続を遮断しました。
USB device full.	USBフラッシュメモリーの容量が一杯でファイルがセーブできないときに表示されます。新しいUSBフラッシュメモリーを用意するか、不要ファイルを消去してから操作をやりなおしてください。
USB device is not responding.	USBフラッシュメモリーからの応答がありません。
USB device not ready.	USBフラッシュメモリーが本体に正しくセットされていない場合に表示されます。
USB device read/write error.	USBフラッシュメモリーへのリード/ライト中にエラーが発生しました。
USB device unformatted.	USBフラッシュメモリーがフォーマットされていないか、本機で処理できないフォーマットの場合に表示されます。USBフラッシュメモリーの内容を確認してください。
USB device write protected.	USBフラッシュメモリーが書き込み禁止状態になっている場合に表示されます。
USB power consumption exceeded.	USBフラッシュメモリーの消費電力が規定値を超えています。
Utility & MComp stored.	ユーティリティ設定やマスターコンプレッサーなどのシステム設定を保存しました。
Working...	ロード/セーブの実行を[EXIT]ボタンで中止したときに表示されます。中止の処理中であることを表しています。

付属ディスクについて

ご注意

- ・ 付属のソフトウェアの著作権は、Steinberg Media Technologies GmbHが所有します。
- ・ 次のページに、付属のソフトウェアのご使用条件が記載されています。付属のソフトウェアをインストールする前に、必ずこのご使用条件をお読みください。ディスクの包装を解かれた場合は、付属のソフトウェアのご使用条件に同意したことになります。
- ・ 付属のソフトウェアおよび取扱説明書の一部または全部を無断で複製、改変することはできません。
- ・ 付属のソフトウェアおよび取扱説明書を運用した結果およびその影響については、一切責任を負いかねますのでご了承ください。
- ・ 付属のソフトウェアのディスクは、オーディオ用ではありません。一般のオーディオ・ビジュアル用のCD/DVDプレーヤーでは絶対に使用しないでください。

付属DAWソフトウェアについて

付属のディスクにはDAWソフトウェアが入っています (Windows/Macintosh)。

- NOTE**
- ・ 付属DAWソフトウェアをインストールするときは、管理者権限のあるアカウントで行なってください。
 - ・ 付属DAWソフトウェアを継続してご使用いただくために、ユーザー登録とソフトウェアライセンス認証が必要です。登録と認証は、インターネットに接続した状態で付属DAWソフトウェアを起動したときに行なえます。起動時に表示される「今すぐ登録」ボタンをクリックし、表示されたすべての項目を入力してください。登録と認証をされない場合は、インストール後、一定期間のみご使用いただけます。
 - ・ Macintoshの場合は、「.mpkg (拡張子)」のアイコンをダブルクリックしてインストールします。

付属のソフトウェアおよび最新の動作環境については、下記のURLをご参照ください。

<http://www.yamahasynth.com/jp/>

サポートについて

付属DAWソフトウェアについては、スタインバーグ社のホームページをご参照ください。スタインバーグ社のホームページでは、製品に関するサポート情報や最新のアップデートのダウンロード、FAQなどを下記URLにて公開しております。

<http://japan.steinberg.net/>

付属DAWソフトウェアの[ヘルプ(Help)]メニューからスタインバーグ社のホームページにアクセスできます。(ヘルプメニューには付属DAWソフトウェアのPDFマニュアルや追加情報なども掲載されています。)

《重要》 ヤマハ株式会社では、付属のソフトウェアについてのサポートは、一切行なっておりません。

ソフトウェアのご使用条件

弊社では本ソフトウェアのお客様によるご使用およびお客様へのアフターサービスについて、〈ソフトウェア使用許諾契約〉を設けさせていただいており、お客様が下記条項にご同意いただいた場合にのみご使用いただけます。

本ソフトウェアのディスクの包装を解かれた場合は下記条項にご同意いただけたものとさせていただきますので、下記条項を充分お読みの上開封してください。ご同意いただけない場合は、インストール、コピー、その他のご使用はおやめください。

このソフトウェア使用許諾契約は、本製品に同梱している、スタインバーグ社の付属DAWソフトウェアに関して、お客様のご使用条件を規定するものです。付属DAWソフトウェアをインストールする過程で「スタインバーグ・エンドユーザー・ライセンス契約書」が表示されますが、その契約書は、このソフトウェア使用許諾契約に置き換えられるために、意味のないものです。インストールする際には、その「スタインバーグ・エンドユーザー・ライセンス契約書」を無視して「同意します」を一律選択し「次へ」をクリックして、次頁（ユーザー登録）に進んでください。

ソフトウェア使用許諾契約

1. 著作権および使用許諾

弊社はお客様に対し、ソフトウェアプログラムおよびデータファイル（以下「本ソフトウェア」といいます。）を使用する権利を許諾します。本契約条項は、今後お客様に一定の条件付きで配布され得る本ソフトウェアのバージョンアッププログラム、データファイルにも適用されるものとします。本ソフトウェアの権利およびその著作権はスタインバーグ社（ドイツ）にあり、弊社は同社からお客様に使用許諾するためのサブライセンス権を得ています。本ソフトウェアの使用によって作成されたデータの権利はお客様が取得しますが、本ソフトウェアは、関連する著作権法規のもとで保護されています。

- お客様ご自身が一時に一台のコンピューターにおいてのみ使用することができます。
- バックアップが許されているものは、バックアップをとる目的のみ、機械で読み取れる形式での本ソフトウェアのコピーを作成することができます。ただし、そのバックアップコピーには本ソフトウェアに表示されている弊社の著作権の表示や他の権利帰属についての説明文もコピーしてください。
- お客様は、製品本体を第三者に譲渡する場合に限り、付属品である本ソフトウェアを使用する権利を、同じ第三者に譲渡することができます。ただし、お客様が本ソフトウェアのコピーを保持せず、かつ譲受人が本契約条項に同意する場合に限られます。

2. 使用制限

- 1) 本ソフトウェアの使用にあたっては、次のことを遵守してください。
 - 本ソフトウェアには著作権があり、その保護のため、お客様が本ソフトウェアを逆コンパイル、逆アセンブル、リバース・エンジニアリング、またはその他のいかなる方法によっても、人間が感得できる形にすることは許されません。

- 本ソフトウェアの全体または一部を複製、修正、改変、賃貸、リース、頒布または本ソフトウェアの内容に基づいて二次的著作物をつくることは許されません。
- 本ソフトウェアをネットワークを通して別のコンピューターに伝送したり、ネットワークで他のコンピューターと共有することは許されません。
- 本ソフトウェアを使用して、違法なデータや公序良俗に反するデータを配信することは許されません。
- 弊社の許可無く本ソフトウェアの使用を前提としたサービスを立ち上げることは許されません。

- 2) 楽曲用MIDIデータ等、本ソフトウェアにより使用または入手できる著作権曲については次のことを遵守してください。
 - 本ソフトウェアの使用によって得られたデータを著作権者の許可なく営業目的で使用することは許されません。
 - 本ソフトウェアの使用によって得られたデータを著作権者の許可なく複製、転送または配信したり、または不特定多数にむけて再生および演奏することは許されません。
 - 本ソフトウェアの使用によって入手できるデータの暗号を著作権者の許可無く解除したり、電子透かしを改変したりすることは許されません。

3. 終了

本契約はお客様が本ソフトウェアをお受け取りになった日に発効します。本契約は、お客様が著作権法または本契約条項に1つでも違反されたときは、弊社からの終了通知がなくても自動的に終了するものとします。その場合には、ただちに本ソフトウェアとそれに関するドキュメンテーション、およびそれらのコピーをすべて廃棄しなければなりません。

4. 製品の保証

本ソフトウェアがディスク等の媒体で販売された場合や、ディスク等の媒体で製品に同梱された場合には、弊社は、お客様が本ソフトウェアをお受け取りになった日から、14日間に限り（お受け取りの日は、受領書の写しで証明される日とします）、媒体に物理的な欠陥があった場合には、その原因が事故、乱用、誤用など弊社の責に帰さない事由による場合を除き、無償で同種の良品と交換させていただきます。弊社はそれ以上の保証はいたしません。

5. 本ソフトウェアに関する保証

本ソフトウェアのご使用についての一切のリスクはお客様のご負担となります。

本ソフトウェアの商品性、特定の目的への適合性、第三者の権利を侵害しないことの保証は明示であると黙示であるとを問わず、一切いたしません。特にお客様の目的に適合することや、ソフトウェアの操作が中断されないことやソフトウェアの欠陥や瑕疵が修正されることの保証はいたしません。

6. 責任の制限

弊社の義務は、お客様に本契約条項の条件で本ソフトウェアの使用を許諾することがすべてです。

弊社は、本ソフトウェアの使用、誤用またはそれを使用できなかったことにより生じた直接的、派生的、付随的または間接的損害（データの破損、営業上の利益の損失、業務の中断、営業情報の損失などによる損害を含む）については、通常もしくは特別の損害に拘わらず、たとえそのような損害の発生の可能性について予め知らされた場合でも、一切責任を負いません。すべての損害、損失、契約や違法行為等に対する訴訟申立てについて、いかなる場合も、お客様に対する弊社の責任は、お客様が本ソフトウェアの購入のために支払った金額を越えることはありません。

7. 一般事項

本契約条項は、弊社の権限ある者の署名のある書面によらない限り、改訂することはできません。

本契約条項は、日本法の適用を受け、日本法に基づいて解釈されるものとします。本契約に関し紛争が生じた場合には東京地方裁判所を専属管轄裁判所とします。

8. インストール時に表示される契約書

本ソフトウェアをインストールする過程で表示される「スタインバーグ・エンドユーザー・ライセンス契約書」は、このソフトウェア使用許諾契約に置き換えられるために、意味のないものです。

仕様

項目	内容	
	CP5	CP50
鍵盤	木製象牙調ウェイトッド鍵盤 88鍵	グレードハンマー鍵盤 88鍵
最大同時発音数	128音	
パフォーマンス	プリセット: 10 × 4グループ × 3バンク ユーザー: 10 × 4グループ × 3バンク (すべてプリセットからのピックアップ) エクスターナル: 10 × 4グループ × 3バンク (USBフラッシュメモリー)	
パート数	6パート	3パート
効果	プリアンプ モジュレーションエフェクト パワーアンプ/コンプレッサー リバーブ マスターコンプレッサー マスターEQ(5バンド) マイクエフェクト マイクインサージョンエフェクト	プリアンプ モジュレーションエフェクト リバーブ マスターコンプレッサー マスターEQ(3バンド)
コントローラー	ピッチバンドホイール [MASTER VOLUME]ダイアル [GAIN]ノブ パートボリュームノブ ノブ1~3 [MASTER EQUALIZER]ノブ	ピッチバンドホイール [MASTER VOLUME]ダイアル パートボリュームノブ ノブ1~3 [MASTER EQUALIZER]ノブ
画面	24文字 × 2行、VFD(蛍光表示管)	
接続端子	OUTPUT [L/MONO]/[R] 端子(アンバランス接続の標準フォーンジャック) OUTPUT [L]/[R] 端子(バランス接続のXLRジャック) [MIC INPUT]端子(コンボジャック) ヘッドフォン端子(ステレオ標準フォーンジャック) FOOT SWITCH [SUSTAIN]/[ASSIGNABLE] 端子 ([SUSTAIN] 端子はハーフダンパー対応) FOOT CONTROLLER 端子 MIDI [IN]/[OUT]/[THRU] 端子 USB TO DEVICE 端子 [USB TO HOST] 端子 [AC IN] 端子	OUTPUT [L/MONO]/[R] 端子(アンバランス接続の標準フォーンジャック) ヘッドフォン端子(ステレオ標準フォーンジャック) FOOT SWITCH [SUSTAIN]/[ASSIGNABLE] 端子 ([SUSTAIN] 端子はハーフダンパー対応) FOOT CONTROLLER 端子 MIDI [IN]/[OUT]/[THRU] 端子 [USB TO DEVICE] 端子 [USB TO HOST] 端子 DC IN 端子
消費電力	14W	7W
寸法(間口×奥行き×高さ) (付属ペダルを除く)	1381 (W) mm × 405 (D) mm × 174 (H) mm	1381 (W) mm × 332 (D) mm × 165 (H) mm
質量(付属ペダルを除く)	25.2 kg	20.9 kg
付属品	電源コード フットペダルFC3 取扱説明書 取扱説明書CD-ROM × 1枚 (リファレンスマニュアル、データリスト収録) DVD-ROM × 1枚 保証書 2P-3P変換器	電源アダプター(PA-150またはヤマハ推奨の同等品) フットペダルFC3 取扱説明書 取扱説明書CD-ROM × 1枚 (リファレンスマニュアル、データリスト収録) DVD-ROM × 1枚 保証書

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

索引

Symbols

[◀PAGE]/[PAGE▶] ボタン	12、19
φ スイッチ	13、16

A

[AC IN] 端子	13、14
------------------	-------

B

Bright	17
--------------	----

C

[COMMON] ボタン	11、35
--------------------	-------

D

DC IN 端子	13、14
----------------	-------

DRAM	49
------------	----

E

[ENTER] ボタン	12
-------------------	----

[EXIT/jump to edit] ボタン	12、21、34
-------------------------------	----------

[EXT] ボタン	23
-----------------	----

F

[FILE] ボタン	12、52
------------------	-------

FOOT CONTROLLER 端子	13
--------------------------	----

FOOT SWITCH [ASSIGNABLE] 端子	13、16、29
-----------------------------------	----------

FOOT SWITCH [SUSTAIN] 端子	13、16、29
--------------------------------	----------

G

[GAIN] ノブ	10、40
-----------------	-------

J

jump to edit	12、34
--------------------	-------

K

Key-on Start	39
--------------------	----

Kit	38
-----------	----

L

LEFT/RIGHT パート	26
----------------------	----

LEFT パート	22
----------------	----

M

[MASTER COMPRESSOR] ボタン	12、30、31、36
-------------------------------	-------------

[MASTER EQUALIZER] ノブ	12、30、36
-----------------------------	----------

[MASTER VOLUME] ダイアル	10、17
----------------------------	-------

[MIC INPUT] 端子	13、40
----------------------	-------

MIC INPUT パート	22、40
---------------------	-------

MIDI [IN]/[OUT]/[THRU] 端子	13、45
---------------------------------	-------

MIDI スルー	48
----------------	----

MIDI 送受信チャンネル	45
---------------------	----

[MOD-FX] ボタン	11、31、34
--------------------	----------

O

OUTPUT [L/MONO]/[R] 端子	13、15
------------------------------	-------

OUTPUT [L]/[R] 端子	13、15
-------------------------	-------

P

Phrase	38
--------------	----

[PRE-AMP] ボタン	11、31、34
---------------------	----------

[PRE] ボタン	23
-----------------	----

[PWR-AMP] ボタン	11、31、34
---------------------	----------

R

[REC] ボタン	12、41
-----------------	-------

[REVERB] ボタン	11、31、35
--------------------	----------

RIGHT パート	22
-----------------	----

S

[SONG SETTING] ボタン	12、37
--------------------------	-------

[SPLIT] ボタン	10、32
-------------------	-------

StartKey	39
----------------	----

[STORE/ASSIGN] ボタン	11、28、50
--------------------------	----------

T

TRACK パート	22、39
-----------------	-------

[TRANSPOSE] ボタン	12、30
-----------------------	-------

索引

U

USB TO DEVICE 端子	12、13
[USB TO HOST] 端子	13、46、47
USB フラッシュメモリー	24、50、52
[USER] ボタン	23
[UTILITY] ボタン	12

V

[VOICE] ボタン	10、33
-------------------	-------

W

Wave ファイル	37、43
-----------------	-------

あ

安全上のご注意	2
---------------	---

え

エクスターナルパフォーマンスメモリー	16、23、24、50
エコバック	48
エディットバッファー	50

お

音量	10、17、26
----------	----------

か

外部MIDI機器	45
外部オーディオ機器	15
画面	17
画面の明るさ	17

き

キーオンスタート	39
基本操作	19

く

グループ[A]～[D] ボタン	12
グループボタン	23

こ

工場出荷時の状態に戻す	52
困ったときは	53
コモンの設定画面	35
コンピューター	46

さ

サステインペダル	16、29
----------------	-------

し

シーケンサートランスポートボタン	12
仕様	62
初期化	52

す

スタートキー	39
スタンバイ/オンスイッチ	13、16
ストア	50
スピーカー	15
スプリット	32

せ

セーブ	49、51、52
-----------	----------

接続

MIDI機器	45
外部オーディオ機器	15
コンピューター	46
電源アダプター	14
電源コード	14
ペダル	16
マイク	40

そ

ゾーン	45
-----------	----

て

デモソング	18
電源コード	14
電源スイッチ	13、16

と

トラブルシューティング	53
ドラムキット	38
ドラムフレーズ	38

な

名前の設定	20
ナンバーボタン	12、23

の

ノブ1~3	12、27
-------------	-------

は

パート	22
パートボタン	10
パートボリューム	26
パートボリュームノブ	10
パフォーマンス	22、33
パフォーマンスのトップ画面	23
バルクダンブ	51
パワーアンプ/コンプレッサーブロック	31、33
バンクセレクト	47
バンクボタン	12、23

ひ

ピッチバンドホイール	10、30
------------------	-------

ふ

ファイル	52
ファクトリーセット	52
フォーマット	25
付属ディスク	59
フットコントローラー端子	16
フラッシュ ROM	49
プリアンプブロック	31、33
プリセットドラムパターン	37
プリセットパフォーマンスメモリー	23
プログラムチェンジ	47

へ

ペダル	16、29
ヘッドフォン	15
ヘッドフォン端子	10、15

ほ

ボイスカテゴリー	34
ボイスブロック	31、33
保存	50

ま

マイク入力	40
マスター EQ	36、51
マスター EQ ブロック	30
マスターイコライザーブロック	22、31、33
マスターコンプレッサー	36
マスターコンプレッサーブロック	22、30、31、33
マスターボリューム	17

め

メッセージリスト	57
メモリー構成	49

も

モジュレーションエフェクトブロック	31、33
-------------------------	-------

ゆ

ユーザーソング	37、41
ユーザーパフォーマンスメモリー	23、50
ユーザーメモリー	50

り

リバーブブロック	22、31、33
----------------	----------

れ

レイヤー	32
レコード	41

ろ

ローカルコントロール	48
ロード	52
録音	41

ユーザーサポートサービスのご案内

■ ユーザー登録のお願い

弊社では、ユーザーの方々をサポートし、関連情報をご提供するために、本製品をご購入いただいたお客様にユーザー登録をお願いしております。

ユーザー登録手続きは、下記ホームページよりお願いします。

ヤマハデジタル楽器・DTM 製品ホームページ

<http://www.yamahasynt.com/jp/>

* ユーザー登録には、製品本体のシリアル番号 (SER No.) が必要になります。
* ご登録いただいた「ご住所」、「お名前」、「メールアドレス」などを変更された場合は、上記ホームページよりお手続きください。

■ 質問の受付

ヤマハデジタル製品は、常に新技術 / 高機能を搭載し技術革新を進める一方、お使いになる方々の負担とわずらわしさを軽減できるような製品づくりを進めております。また取扱説明書の記載内容も、よりわかりやすく使いやすいものにするため、研究 / 改善いたしております。

しかし、一部高機能デジタル製品では、取扱説明書だけでは説明しきれないほどのいろいろな知識や経験を必要としてしまうものがあります。

実際の操作に関して、基本項目は取扱説明書に解説いたしておりますが、「記載内容が理解できない」、「手順通りに動作しない」、「記載が見つからない」といったさまざまな問題が起こる場合があります。

そのようなお客様への一助となるよう、弊社ではシンセサイザー・デジタル楽器ご相談窓口を開設いたしております。

お気軽にご利用いただけますようご案内申し上げます。

お問い合わせの際には、「製品名」、「シリアル番号 (SER No.)」をお知らせください。

お客様コミュニケーションセンター

シンセサイザー・デジタル楽器ご相談窓口

ナビダイヤル
(全国共通番号)



0570-015-808

※一般公衆電話からは、市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP 電話からは TEL. (053)-460-1666

営業時間：月曜日～金曜日 10:00～18:00、

土曜日 10:00～17:00

(祝日およびセンター指定休日を除く)

メールでのお問い合わせ

<http://jp.yamaha.com/support/music-production/>

* 営業日や営業時間を変更させていただく場合がございます。
あらかじめご了承ください。

付属 DAW ソフトウェアについては、Steinberg 社のホームページをご覧ください。Steinberg 社のホームページでは、製品に関するサポート情報や、最新のアップデートのダウンロード、FAQなどを下記 URL にて公開しております。

<http://japan.steinberg.net/>

付属 DAW ソフトウェアの [ヘルプ (Help)] メニューから Steinberg 社のホームページにアクセスできます。(ヘルプメニューには、付属 DAW ソフトウェアの PDF マニュアルや追加情報なども掲載されています。)

ヤマハデジタル楽器・DTM 製品ホームページ

<http://www.yamahasynt.com/jp/>

ヤマハマニュアルライブラリー

<http://www.yamaha.co.jp/manual/japan/>

あなたの音楽生活をフルサポート ミュージックイークラブ

<http://www.music-eclub.com/>

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

● 保証書

本機には保証書がついています。
保証書は販売店がお渡ししますので、必ず「販売店印・お買い上げ日」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。

● 保証期間

お買い上げ日から1年間です。

● 保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。
下記の部品については、使用時間や使用環境などにより劣化しやすいため、消耗に応じて部品の交換が必要となります。消耗部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

消耗部品の例

ボリュームコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点など

● 補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。

● 修理のご依頼

まず本書の「困ったときは」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。
それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、またはヤマハ修理ご相談センターへ修理をお申し付けください。

● 製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

◆ 修理に関するお問い合わせ

ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル
(全国共通番号)



0570-012-808

市内通話料でOK
ナビダイヤル

※一般公衆電話からは、市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からはTEL.(053)-460-4830

営業時間：月曜日～金曜日9:00～18:00、

土曜日9:00～17:00

(祝日およびセンター指定休日を除く)

FAX

東日本(北海道/東北/関東/甲信越) 03-5762-2125

西日本(沖縄/九州/中国/四国/近畿/東海/北陸) 06-6465-0374

◆ 修理品お持込み窓口

受付時間 月曜日～金曜日 9:00～17:45

(祝日および弊社休業日を除く)

*お電話は、ヤマハ修理ご相談センターでお受けします。

北海道サービスステーション

〒064-8543

札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内

FAX(011)512-6109

首都圏サービスセンター

〒143-0006

東京都大田区平和島2丁目1-1 京浜トラックターミナル内
14号棟A-5F

FAX(03)5762-2125

浜松サービスステーション

〒435-0016

浜松市東区和田町200 ヤマハ(株)和田工場内

FAX(053)462-9244

名古屋サービスセンター

〒454-0832

名古屋市中川区清船町4丁目1-11 ピアノ運送株式会社
名古屋営業所1F

FAX(052)363-5903

大阪サービスセンター

〒554-0024

大阪市比花区島屋6-2-82 ユニバーサル・シティ和幸ビル9F

FAX(06)6465-0374

九州サービスステーション

〒812-8508

福岡市博多区博多駅前2丁目11-4

FAX(092)472-2137

*名称、住所、電話番号などは変更になる場合があります。

ヤマハデジタル楽器・DTM製品ホームページ
<http://www.yamahasyth.com/jp/>

ヤマハマニュアルライブラリー
<http://www.yamaha.co.jp/manual/japan/>

あなたの音楽生活をフルサポート ミュージックイークラブ
<http://www.music-eclub.com/>

U.R.G., Digital Musical Instrument Division
© 2010 - 2011 Yamaha Corporation

WS09800 109YJTO-D0

Printed in Japan